ヨハネの福音書（漁師ヨハネの記録）
ヨハネは漁師でした。　キリストを信じてから約三年の間、イエスに身近に接し、彼が普通の人と全く違うことを見いだしたのです。　それは、今まで出会った人には見られなかった権威あることばや、人々から恐れられ、敬われている学者や指導者に、はっきりとその間違いを正す態度、そして、神様に祈り求めてなされる数々の奇蹟等によってでした。
ヨハネは知ったのです。　イエスこそ、ご自分で言われるとおり、神のひとり子であり、この世の救い主であることを。

一
キリストこそほんとうの光
１２まだ何もない時、キリストは神と共におられました。　キリストは、いつの時代にも生きておられます。　キリストは神なのです。　３このキリストが、すべてのものをお造りになりました。　そうでないものは一つもありません。　４キリストには永遠のいのちがあります。　全人類に光を与えるいのちです。　５そのいのちは、暗やみの中でさんぜんと輝き、どんな暗やみも、この光を消すことはできません。
６７イエス・キリストこそほんとうの光です。　このことを証言させるために、神はバプテスマのヨハネをお遣わしになりました。　８ヨハネ自身は光ではなく、ただその光を指し示す証人にすぎません。　９後に、ほんとうの光である方が来て、全世界の人々を照らしてくださったのです。
１０　ところが、世界を造った方が来られたというのに、だれもこの方に気づきませんでした。　１１１２自分の国にいながら、自分の民のユダヤ人にさえ、受け入れてはもらえなかったのです。　この方を心から喜び迎えたのは、ほんのわずかな人にすぎません。　しかし、受け入れた人はみな、この方から、神の子供となる特権をいただきました。　それにはただ、この方が救ってくださると信じればよかったのです。　１３信じる人はだれでも、新しく生まれ変わります。　神が、そう望まれたのです。　人間の熱意や計画は全く関係ありません。
１４　キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。　彼は恵みと真実の方でした。　私たちはこの方の栄光を目のあたりにしました。　それは天の父のひとり子としての栄光でした。
１５　ヨハネは人々にキリストを紹介しました。「私が今まで、『まもなく来られる方は、私よりはるかに偉大な方だ。　私が生まれるずっと前からおられたからだ』と口をすっぱくして言ってきたのは、まさにこの方のことなのだ。」　１６この方の恵みは尽きるところを知りません。　私たちはみな、次から次へと、あふれるばかりに恵みをいただきました。
１７モーセはきびしい命令と、情け容赦もない法律とを与えただけでしたが、イエス・キリストはその上に、愛に満ちた赦しの道を備えてくださったからです。　１８いまだかつて、実際に神を見た人はいません。　しかしもちろん、神のひとり子だけは別です。　御

子は、父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることは、何でも教えてくださったのです。
ヨハネの証言
１９　ユダヤ人の指導者たちは、エルサレムから、祭司とその助手たちとをヨハネのもとへ派遣し、「おまえはキリストか」と問いたださせました。
２０　ヨハネは、「とんでもない」と、きっぱり否定しました。
２１　「そうか。　では、いったい何者だ。　エリヤか。」
「いや、違う。」
「すると、あの預言者か。」
「いや。」
２２　「では、いったい何者か。　はっきりしてくれ。　私たちは帰って報告しなければならないのだ。　ええっ、おまえは何者なのだ。」
２３　「私は、イザヤが預言した、あの、荒野から聞こえる叫び声にすぎない。　『主を迎える準備をせよ』と叫ぶ声、あれが私だ。」
２４２５パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）から派遣された人たちは、なおも問い詰めました。　「キリストでも、エリヤでも、あの預言者でもないのなら、いったいどんな資格でバプテスマ（洗礼）を授けているのか。」
２６　ヨハネは答えました。　「私はただ、水でバプテスマを授けているだけだ。　しかし、ここにいる人々の中には、あなたがたのまだ知らない方がおられる。　２７まもなく、あなたがたの間で働きを始められるだろう。　私には、その方のしもべとなる資格もないのだ。」
２８　この出来事は、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダン川の東岸にある、ベタニヤ村で起こりました。
２９　翌日のことです。　ヨハネは、イエスが来られるのを見て、言いました。　「ご覧なさい！　この方こそ、世の人々の罪を取り除く神の小羊だ。　３０ああ、『まもなく、私よりはるかに偉大な方がおいでになる。　私よりずっと前からおられる方だ』と常々話していたのは、この方のことだったのだ。　３１今までは、この方だとわからなかった。　だが、私がここで水のバプテスマを授けているのは、まさにこの方を、イスラエルの人々に紹介するためだったのだ。」
３２　ヨハネはさらに続けました。　「確かに、聖霊様が鳩のように天から下り、この方の上にとどまられるのを見た。
３３　初めは私も、この方がその方だとはわからなかった。　だが、バプテスマを授けさせるために私を遣わす時、神様はこう言われたのだ。『もし、聖霊がだれかに下り、その上にとどまるのを見たら、その方こそ、あなたの捜し求める方、聖霊のバプテスマをお授けになる方だ。』　３４そのとおりのことが、この方に起こった。　しかと、この目で見たのだ。　この方は神の子にまちがいない。」

イエス、弟子を集める
３５　その翌日､ヨハネは二人の弟子といっしょに立っていました。　３６目を上げると､イエスが歩いておられるではありませんか。　その姿を食い入るように見つめながら､ヨハネは､｢ご覧なさい。　神の小羊だっ！」と言いました。
３７　これを聞いた弟子は二人とも､急いでイエスのあとを追いかけました。
３８　その足音にイエスはふり向かれ､二人を見てお尋ねになりました。｢おや､何かご用でしょうか？」
「失礼ですが、先生。　どちらにお住まいで？」
３９　「いっしょに来なさい。　すぐにわかりますよ。」こう言われて二人は、イエスの泊まっておられる所までついて行きました。 だいたい午後四時ごろだったでしょうか。 その日は、それからずっと、イエスといっしょにいました。　４０二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレでした。
４１　それから､アンデレはシモンを捜し出し､｢とうとうメシヤ〔訳すとキリスト〕様にお会いしたよ」と言いました。　４２そして、彼をイエスのところへ引っ張って行きました。
　イエスはシモンをじっと見つめられ､｢あなたはヨハネの子シモンですね。 だがこれからは、ペテロ、つまり『岩』と呼ばせてもらいますよ」と言われました。
４３　その翌日､イエスは､ガリラヤへ出発なさいました。　途中､ピリポを見つけ､｢さあ、ついて来なさい」と言われました。　４４ピリポは、アンデレやペテロと同郷で、ベツサイダの出身だったのです。
４５　ピリポはナタナエルを捜しに行き、会うなり言いました。
｢メシヤ (救い主) 様にお会いしたぞ。　モーセや預言者たちが言ったあのお方だよ。　ナザレ出身のイエスという方なんだ。　ヨセフという人の息子さんだそうだ。」
４６　「ナザレだって！」ナタナエルはびっくりしました。　「あんな所から、すぐれた人物なんか出っこないぜ。」
　しかしピリポは､｢まあまあ､とにかく来てみろよ。 自分の目で確かめたらいいだろう」と言いはります。
４７　ナタナエルも行ってみる気になりました。　イエスは、歩いて来るナタナエルの姿に目をとめておっしゃいました。
「根っからの正直者がやって来ます。　この人こそ生粋のイスラエル人です。」
４８　「どうして、おわかりなのですか。」ナタナエルは聞き返しました。
「見ましたよ。　ピリポがあなたに会う前に、いちじくの木の下にいたのを。」
４９　「先生。　あなた様は神の子、イスラエルの王です！」
５０　「そう信じるのは、あなたがいちじくの木の下にいるのを見たと、わたしが言ったからですか。　だが、それよりはるかにすばらしい証拠があります。　５１天が開けて、神の使いたちがメシヤのわたしをとおって行き来するのを、やがて、あなたがたは見るの

です。」
二
イエス、水をぶどう酒に変える
１　それから三日目に、ガリラヤのカナという村で結婚式があり、イエスの母マリヤは、客として出席しました。　２イエスと弟子たちも招待されました。　３ところが、宴会の最中だというのに、ぶどう酒が切れてしまったのです。　マリヤは、そのことをイエスに知らせました。
４　イエスは、「今はだめですよ、お母さん。　まだ、奇蹟を行なう時ではありませんから」と、お答えになりました。
５　しかし、マリヤは手伝いの者たちに、「この人の言いつけどおりになさってね」と申し渡しました。
６　さてそこには、石の水がめが六つありました。　ユダヤ教の儀式に使う水がめで、それぞれ八十リットルから百二十リットルぐらい入るものです。　７イエスは手伝いの者たちに、「さあ、縁までいっぱい水を入れなさい」と指示なさいました。　彼らがそのとおりにすると、　８「いいでしょう。　では今度は、それを汲んで、宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われました。　彼らは、言われるままに持って行きました。
９　宴会の世話役が試しに一口味わってみると、おいしいぶどう酒です。　「こんな上等の酒を、いったいどこから出してきたんだろう」と首をかしげました。　〔もちろん手伝いの者たちは何もかも知っています。〕そこで、花婿を呼び出して、　１０言いました。
「これは極上のぶどう酒じゃないですか。　あなたは並みの方じゃありませんね。　たいていどこの家でも、初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわって味がわからなくなると、安物でごまかすものですよ。　ところがあなたは、一番上等なものを、最後まで取っておかれたんですからね。」
１１　このガリラヤのカナでの奇蹟は、イエスが神の力を公に示された最初のものでした。これを見て、弟子たちは、「イエス様は正真正銘のメシヤ（救い主）だ」と信じたのです。
１２　その結婚式のあと、イエスは、母や兄弟、弟子たちといっしょにカペナウムへ行き、数日間、滞在されました。
イエス、エルサレム神殿をきよめる
１３　ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムへ行かれました。
１４　そして、宮の境内で、供え物用の牛、羊、鳩を売る商人たちや、勘定台を前にどっかと座り込んでいる両替人たちをごらんになりました。　１５あまりの有様に、イエスはなわでむちを作り、商売人たちをみな追い出され、鳩や羊や牛を追い散らし始められました。　次々に両替人の勘定台をひっくり返されるので、お金はあたり一面に散らばり、足の踏み場もありません。　１６鳩を売る者たちには、「それを持って、出て行きなさい。　父の家を金もうけの場所にしてはいけません」と、言われました。
１７　そのとき弟子たちは、「神の家を思う熱心が、わたしを焼き尽くす」という、聖書（旧

約）の預言を思い出したのです。
１８　おさまらないのは､ユダヤ人の指導者たちです。 かんかんになって抗議しました。「いったい何の権利があって、この人たちを追い出すのかっ！　そんな権威を神様から与えられてるんだったら、その証拠に奇蹟を見せてもらおうじゃないか。」
１９　イエスはお答えになりました。 「わかりました。　この神殿をこわしなさい。　三日で建て直してみせましょう。」
２０　「何だってっ！　この神殿は建てるのに四十六年もかかったんだ。それを三日で建てると言うのかっ！」ユダヤ人たちはあきれ返りました。　２１しかしイエスが「この神殿」と言われたのは、自分の体のことだったのです。　２２イエスが復活されてから、弟子たちは、このことを思い出しました。　そして、イエスは自分のことを、聖書のことばを引用して話されたのであり、何もかもそのとおりになったと、改めて納得がいったのです。
２３　過越の祭りの時､イエスがエルサレムで奇蹟を行なわれたので､多くの人が､「この方は確かにメシヤ（救い主）様だ」と信じるようになりました。　２４２５しかしイエスは、そういう人々を信用されたわけではありません。　人間がどれほど変わりやすいものか、その心の底の底まで、知り尽くしておられたからです。
三
新しいいのちが与えられる
１２とっぷり日も暮れたある夜のこと、パリサイ人で、ニコデモという名のユダヤ人の指導者が、イエスに会いに来ました。　「先生。　だれもみな、あなた様が神様から遣わされた教師であることを存じ上げております。　あなた様のなさる奇蹟を見ればもう、わかりきったことでございます。」
３ 「そうですか。 でもよく言っておきますが､あなたはもう一度生まれ直さなければ､絶対に神の国へは入れません。」
４　ニコデモは､思わず大声で叫びました。 「ええっ､もう一度生まれるのですか！　いったい、どういうことですか。　年をとった人間が母親の胎内に戻って、もう一度生まれるんですか。　そんなこと、できっこありませんよ。」
５　「よく言っておきますが、だれでも水と御霊によって生まれなければ、神の国へは入れません。　６人間からは人間のいのちが生まれるだけです。　けれども聖霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。　７もう一度生まれなければならない、と言われたからといって、驚くことはありません。　８風は、音が聞こえるだけで、どこから吹いて来るかも､どこへ行くのかもわかりません。 御霊だって同じことです。 次はだれに､この天からのいのちが与えられるか、まるでわからないのです。」
９　「それはいったい、どういうことで？」
１０　「あなたはみんなに尊敬されているユダヤ人の教師ではありませんか。　このようなこともわからないのですか……。　１１わたしは知っていること、見たことだけを話し

ているのです。　それなのに、あなたがたは信じてくれません。　１２人間の世界で現に起こっていることなのですよ。　それも信じられないくらいなら、天で起こることなど、話したところで、とても信じられないでしょう。　１３メシヤ（救い主）のわたしだけが、この地上に下って来て、また天に帰るのです。　１４モーセが荒野で、青銅で作った蛇を、さおの先に掲げたように、わたしも木の上に上げられなければなりません。　１５わたしを信じる人はだれでも、永遠のいのちを持つためです。」
１６　実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。　それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。　１７神がご自分の御子を世にお遣わしになったのは、世に有罪判決を下すためではありません。救うためです。
１８　この神の子に救っていただけると信じ、何もかもお任せする者は、永遠の滅びを免れます。　しかし、お任せしない者は、神のひとり子を信じなかったのですから、すでにさばかれ、有罪判決を下されたのです。　１９そのような判決が下ったわけは、こうです。天からの光が世に来ているのに、彼らは、自分の行ないが悪かったため、光よりも暗やみを愛したのです。　２０暗やみの中で罪を犯したいので、彼らは天からの光をきらいました。　罪が暴露され罰せられるのを恐れて、光のほうに出て来ようともしません。　２１しかし、正しいことを行なっている人は、喜んで光のほうに出て来ます。　神の望まれることを行なっていると、だれの目にもはっきりわかるためです。
２２　その後、イエスと弟子たちは、エルサレムを去り、しばらくユダヤに滞在し、バプテスマ（洗礼）を授けていました。
ヨハネとイエスの役割
２３２４そのころはまだ、バプテスマのヨハネは投獄されておらず、サリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていました。　そこには、水がたくさんあったからです。　２５ある日、一人のユダヤ人が、「イエス様のバプテスマのほうがすぐれている」と、ヨハネの弟子たちに議論を吹っかけました。　２６弟子たちは、ヨハネのところに来てこぼしました。　「先生。　ヨルダン川の向こう岸でお会いしたあの方、あなた様がメシヤ（救い主）だとおっしゃったあの方も、バプテスマを授けておられるそうで……。　みんな、こちらには来ないで、どんどんあの方のほうへ行ってしまいます。」
２７　ヨハネは答えました。　「天の神様が、一人一人にそれぞれの役割を決めてくださる。　２８私の役目は、だれもがあの方のところへ行けるように道を備えることだ。　私はキリストではないと、はっきり言ったはずだよ。　あの方のために道を備えるために、私はここにいるのだ。　２９一番魅力のあるものに人々が集まるのは当然だろうが。　花嫁は花婿のもとへ行く。　花婿の友達は花婿といっしょに喜ぶ。　私は花婿の友達だから、花婿の喜ぶ声を聞くと、うれしくてたまらないのだ。　３０あの方はますます偉大になり、私はますます力を失う。
３１　あの方は天から来られた方。　ほかのだれよりも偉大なお方だ。　私は地から出た

者。　地上のことしかわからない。　３２あの方は、見たこと聞いたことをお話しになる。　だが、そのおことばを信じる人はなんと少ないことか……。　３３あの方を信じれば、神様が真理の源だとわかるのに。　３４神様から遣わされたあの方は、神様のことばをお話しになる。　あの方の上には、神の御霊が無限に注がれているからだ。　３５父なる神様はこの方を愛し、万物をこの方にお与えになった。
３６　この方は神様の御子なのだ。　この方に救っていただけると信じ、何もかも任せきる者はだれでも、永遠のいのちを得る。　だが、この方を信じない者、従わない者は、絶対に天国を見ることはできない。　それればかりか、神様の怒りがその人の上にとどまるのだ。」
四
サマリヤ人の女
１　さて、イエスのところには、ぞくぞくと人々が詰めかけ、バプテスマ（洗礼）を受けて弟子になり、その数はヨハネよりも多いといううわさが、パリサイ人たちの耳に入りました。　イエスはこのことを知ると、　２――もっとも、実際にバプテスマを授けていたのは、イエス自身ではなく、弟子たちでしたが、――　３ユダヤをお去りになり、またガリラヤ地方へ行かれました。
４　その途中で、どうしてもサマリヤをお通りにならなければなりません。
５６サマリヤのスカルという村にさしかかられたのは、ちょうど正午ごろでした。　そこに、昔ヤコブが息子ヨセフに与えた土地があり、ヤコブの井戸がありました。　日のかんかん照りつける長い道のりを歩いて来られたイエスは、疲れ果て、井戸のそばにぐったり腰をおろされました。
７　まもなく、サマリヤ人の女が一人、水を汲みに来ました。 イエスは、「すみませんが、水を一杯下さい」と声をおかけになりました。　８そのとき弟子たちは、村へ食べ物を買いに行っており、ほかにはだれもいません。
９　女はびっくりしたようです。　「あれまあ、あんたユダヤ人じゃないのさ。　あたしはサマリヤ人だよ。　なのにどうして、水をくれなんて頼むのさ。」〔当時、ユダヤ人はサマリヤ人を見下し、口をきこうとさえしなかったのです。〕
１０　「もし、神があなたに、どんなにすばらしい贈り物を用意しておられるか、また、わたしがだれかを知ってさえいたら、あなたのほうから、いのちの水をくださいと願ったでしょう。」
１１　「そんなこと言ったって、あんたは水を汲むおけも綱も持ってないじゃないか。　この井戸はとても深いんだよ。　そのいのちの水を、いったいどっから汲むのさ。　１２あんたは、あたしたちのご先祖ヤコブ様よりも偉いってのかい。　ヤコブ様はこの井戸をあたしたちにくれたんだよ。　ヤコブ様も、その子孫も、家畜もみんな、この井戸の水を喜んで飲んだんだ。　これよりいい水をくれるってのかい。」
１３　「この水を飲んでも、すぐにまた、のどが渇きます。　１４けれども、わたしがあ

げる水を飲めば、絶対に渇くことはありません。　わたしがあげる水は、それを飲む人のうちで、永久にかれない泉となり、いつまでも、その人を永遠のいのちで潤すからです。」
１５　「先生。　その水をあたしに下さいよ。　そうすりゃ、のども渇かないし、毎日こんな遠くまで、てくてく歩いてさ、水汲みに来なくてすむもの。」
１６　「帰って、夫を連れて来なさい。」
１７１８「でも、あたし、結婚なんかしてない。」
「それもそうです。　あなたは五回も結婚したけれど、今いっしょに暮らしてる男は、確かに夫ではありませんね。」
１９　「先生。　あなた様は預言者でしょう。　２０だったら教えてくださいよ。　ユダヤ人は、礼拝の場所はエルサレムだけだと言いはるし、サマリヤ人は、あたしたちのご先祖様が礼拝した、このゲリジム山だと言ってる。　どうしてなんです？」
２１‐２４「いいですか。　父なる神を礼拝する場所は、この山か、それともエルサレムか、などとこだわる必要のない時が来るのです。　大切なのは、どこで礼拝するかではありません。　どのように礼拝するかです。　霊的な、真心からの礼拝をしているかどうかが問題なのです。　神は霊なるお方だから、正しい礼拝をするには、聖霊の助けが必要です。　神はそのような礼拝をしてほしいのですよ。　あなたがたサマリヤ人は、神のことはほとんど何も知らないで礼拝していますが、私たちユダヤ人はよく知っています。　救いはユダヤ人を通してこの世に来るのですから。」
２５　「そりゃあね、キリストと呼ばれるメシヤ（救い主）様がおいでになることだけは、知ってますよ。　その方がおいでになれば、いっさいのことを説明してくださるんでしょう。」
２６　「わたしがそのメシヤです。」
２７　ちょうどその時、弟子たちが戻って来ました。　驚いたことに、イエスは女と話しておられるではありませんか。　しかし、どうしてなのか、何を話していらっしゃるのか尋ねた者はいませんでした。
２８　女は、水がめを井戸のそばに置いたまま村に帰り、会う人ごとに話しかけました。
２９「ねえねえ、来て、会ってごらんよ。　あたしのしてきたことを、何もかも言い当てた方がいるのさ。 あの方こそ、キリスト様に違いないよ。」 ３０この誘いに村人たちは、イエスに会おうと、ぞくぞく押しかけました。
３１　その間に、弟子たちはイエスに、「先生。　どうぞお食事を」と勧めました。　３２ところがイエスは、「いやけっこうです。　わたしには、あなたがたの知らない食べ物があるのですよ」と言われたのです。
３３　弟子たちはけげんそうに、「だれかが食べ物を持って来たんだろう」と言い合いました。
３４　そこでイエスは説明なさいました。　「いいですか、わたしの食べ物というのは、わたしを遣わされた神のお心にかなうことをし、神の仕事をやり遂げることなのです。　３

５『刈り入れはまだ四か月も先のこと、夏も終わりにならなければ始まらない』と思っているようですね。　だが、回りをよく見なさい。　人間のたましいの畑は広々と一面に実り、刈り入れを待つばかりです。　３６刈り入れをする人たちは、たくさんの報酬をもらい、永遠のいのちに入るたましいを天の倉に取り入れます。　その時、種をまいた者も、刈り入れをした者も、共々に、大いに喜ぶのです。　３７『一人が種をまき、ほかの人が刈り入れる』ということわざのとおりにです。　３８あなたがたが自分で種まきをしなかった畑に、わたしはあなたがたを遣わしました。　ほかの人々が苦労して育てたものを、あなたがたが刈り入れるのです。」
３９　スカルの村から押しかけたサマリヤ人の多くは､例の女が、「あの方はあたしのしてきたことを、何もかも言い当てた」と言うのを聞いて、イエスをメシヤだと信じました。４０彼らは井戸のところに来てイエスにお会いすると、村に滞在してくださいと頼みました。　そこでイエスは、二日間、滞在しました。　４１その間に、もっと大ぜいの人が、イエスのことばを聞いて、信じました。　４２そういう人々は女に「もう私たちは、おまえさんが話してくれたことを聞いたから信じてるんじゃないよ。　この方の言われることを、じかに聞いたからさ。　この方こそ、ほんとうに世の救い主だ」と、言いました。
４３　さて、二日の後、イエスはスカルの村を去り、ガリラヤへ行かれました。　４４イエスは常々、「預言者は、故郷では尊敬されないものです」と言っておられました。　４５ところが、どうでしょう。　ガリラヤの人たちは、大喜びでイエスを迎えたのです。　それもそのはず、この人たちは過越の祭りの時にエルサレムにいて、イエスのなさったことを、全部見ていたのです。
イエス、役人の息子を治す
４６　ガリラヤ旅行の途中、イエスはカナの村に行かれました。　以前、水をぶどう酒に変えた所です。　ところで、カペナウムの町に、重病の息子をかかえた政府の役人がいました。　４７うわさでは､イエスはユダヤを出てガリラヤを旅行中だということです。　役人は、さっそくカナまでやって来ました。　そしてイエスにお会いすると、「息子が今にも死にそうなんです。　どうぞカペナウムへおいでになって、治してやってくださいっ！」と熱心に頼みました。
４８　「わたしがもっと多くの奇蹟を行なわなければ、信じようとしないのですか。」
４９　「先生。　お願いですっ！　子供が死なないうちにおいでください。」
５０　「さあ、家にお帰りなさい。　お子さんは治りました。」
役人は、イエスのことばを信じ、家へ急ぎました。　５１途中、召使たちが迎えに来て、「お坊っちゃまは、すっかりよくなりました」と知らせました。
５２　「えっ！　いつからだ。」
「昨日の午後一時ごろでしょうか、急に熱が下がりまして……。」
５３　それはまさに、イエスが「お子さんは治りました」と言われた時刻とぴったり一致していました。　このことがあって、役人と家族全員が、イエスをメシヤ（救い主）だと

信じました。
５４　これは、イエスがユダヤから来られて、ガリラヤで行なわれた第二の奇蹟です。
五
聖書（旧約）はイエスを指し示す
１　その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに戻られました。　２エルサレム市内には、羊の門の近くに、ベテスダという池がありました。　池の回りには、屋根つきの五つの廊下があります。　３そこに、足の不自由な人、盲人、手足の麻痺した人など、大ぜいの病人が横たわっていました。　〔この人たちは、水面が揺れ動くのを待っていたのです。　４というのは、時たま主の使いが来て、水をかき回すことがあり、その時、最初に池に入った人は、病気が治ったからです。〕
５　その中に、三十八年間も病気で苦しんでいる男がいました。　６イエスはこの男をごらんになり、長い間どんなに苦しんできたかを知って、「よくなりたいですか」とお尋ねになりました。
７　「もうあきらめてますよ。　せっかく水が動いても、だれも池に入れてはくれないんだから。 何とかして行こうとしている間に、いつでもほかの人が先に入っちゃうんでね。」
８　「さあ、立って、床をたたんで家に帰りなさい。」
９　イエスがこう言われると、たちまち病気は治りました。　男はすぐに床をたたみ、歩きだしたのです。
ところが、この奇蹟が行なわれたのが安息日だったので、　１０ユダヤ人の指導者たちはひどく腹を立て、その男をしかりつけました。「安息日に仕事をするとはけしからん。　床を運んだりするのは、おきて違反だっ！」
１１　「でも……、私を治してくださった方が、そうしろとおっしゃったんですよ。」
１２　「そんなことを言ったのはどこのどいつだっ！」彼らは問い詰めましたが、　１３男には、だれかわかりません。 イエスはすでに、人ごみに姿を消しておられたからです。
１４しばらくして、イエスは宮でその男を見つけ、声をおかけになりました。　「どうですか、すっかりよくなったでしょう。　もう前のように罪を犯してはいけませんよ。　そうでないと、もっとひどい目に会うかもしれませんから。」
１５　男は、ユダヤ人の指導者たちを捜し出し、治してくれたのはイエスだと告げました。
１６　ユダヤ人の指導者たちは、イエスを、安息日の違反者ときめつけ、しつこい攻撃を始めました。　１７ところが、イエスはお答えになりました。　「わたしの父は、絶えず良い働きをしておられます。　その模範にならっているのです。」
１８　これを聞いたユダヤ人の指導者たちは、ますます、イエスを殺そうと思うようになりました。　イエスが安息日のおきてを破ったばかりか、事もあろうに、神を「父」と呼んで、自分を神と等しい者とされたからです。
１９　イエスはお答えになりました。　「よく言っておきます。　子は自分からは何もできません。　ただ父がしておられることを見て、同じようにするだけです。　２０父は子

を愛して、自分のすることは何でも、子に教えてくださるのです。　子は、病気を治すことなど比べものにならないほど大きな、驚くべき奇蹟を行ないます。　２１父が死人を生き返らせるように、子も、思うままに人を死人の中から生き返らせもするのです。　２２父は、罪のさばきを、いっさい子に任せておられます。　２３すべての者が父を敬うように、子をも敬うためです。　だから、父がお遣わしになった神の子を敬わないのは、父を敬わないのと全く同じことです。
２４　よく言っておきます。　わたしの言うことを聞き、わたしを遣わされた神を信じる人はだれでも、永遠のいのちがあります。　罪のために罰せられることは絶対にありません。　すでに死からいのちに移っているのです。　２５はっきり言いましょう。　死人が、神の子であるわたしの声を聞く時が、じきに来ます。　いやもう来ているのです。　そして、聞いた者は生きます。　２６父が自分のいのちを、子にも与えてくださったからです。２７また、全人類の罪をさばく権威も下さいました。
それもみな、子がメシヤ（救い主）だからです。　２８驚いてはいけません。　墓の中の死人がみな、神の子の声を聞く時が来ます。　２９その時、彼らは復活します。　良いことをしてきた者は、永遠のいのちをいただくために、悪いことをし続けてきた者は、さばきを受けるために。
３０　しかしわたしは、父と相談もせずに判決を下したりはしません。　ただ言われるとおりにさばくだけです。　ですから、わたしのさばきは絶対に公平で正しいのです。　自分の考えだけによらず、わたしを遣わされた神の意志に従ってさばくからです。
３１　わたしが自分について証言しても、だれも信じないでしょう。　３２しかし、わたしのことを証言してくださる方がほかにおられます。その方の証言はまちがいなく真実です。　３３あなたがたは、バプテスマのヨハネの教えを聞こうと、わざわざ出かけて行きました。確かに、ヨハネがわたしについて語ることは、何もかもほんとうのことです。　３４しかし、わたしについての最高の証言は、人間の証言ではありません。　ただ、ヨハネの証言のことを思い出させたのは、わたしを信じて救われてほしい一心からです。　３５なるほどヨハネはしばらくの間、ひときわ明るく輝き、あなたがたもそれを喜びました。３６しかし、わたしには、ヨハネの証言よりも、もっとすぐれた証言があります。　それは、わたしの行なう奇蹟です。　これらの奇蹟は、父がわたしに託されたもので、父がわたしをお遣わしになったという、動かぬ証拠なのです。　３７また、父もおん自ら、直接あなたがたに姿を現わしたり、語りかけたりはなさいませんが、わたしのことを証言しておられます。　３８ところがどうです。　あなたがたは、父のことばを聞こうともしません。　神のことづけを伝えるために遣わされたわたしを、信じないのですから。
３９　あなたがたは、永遠のいのちを見つけようと、熱心に聖書を調べています。　その聖書は、わたしを指し示しているのです。　４０それなのにあなたがたは、わたしのところに来ようともしません。　ですから、永遠のいのちを受けることができないのです。
４１４２あなたがたがわたしを認めようが認めまいが、そんなことはどうでもいいことで

す。　あなたがたのうちには神の愛がないのですから。　４３わたしは父の代理として来たのに、あなたがたは喜んで迎えてはくれません。　ところが、ほかの人が、神から遣わされたのでもなく、ただ自分の権威を引っ下げて来ると、待ってましたとばかり、手をたたいて迎えるのです。　４４もっとも、あなたがたが信じられないのも、むりはありません。　互いにほめたり、ほめられたりすることは喜んでも、ただ一人の神からほめていただくことなどまるで関心がないのですから。
４５　しかし、このことであなたがたを父に訴えるのは、わたしではありません。　それはモーセです。 あなたがたはモーセのおきてにひたすら天国への望みをかけていますが、おきてを与えた当のモーセが訴えるのです。　４６それもみな、あなたがたがほんとうはモーセを信じていないからです。　モーセはわたしのことを書いたのです。　そのモーセを信じないから、わたしをも信じないのです。　４７モーセの書いたものを信じないくらいだから、わたしを信じないのも不思議はありません。」
□
六
天からのパンであるイエス
１　その後､イエスはテベリヤ湖とも呼ばれるガリラヤ湖の向こう岸に行かれました。 ２‐５大ぜいの群衆が、どこまでもあとについて行きました。　イエスが病人を治されるのを見たからです。　人々の多くは、年一度の過越の祭りのため、エルサレムへ行く途中でした。
イエスが丘に登り、弟子たちといっしょに腰をおろされると、大ぜいの群衆も、追いかけるように、あとからあとから丘に登って来ます。
その様子をながめながら､イエスはピリポにお尋ねになりました。｢ピリポ。　この人たち全部に食べさせるには、どこからパンを買ってきたらいいでしょうか。」　６もっとも、これは、ピリポを試しただけで、どうするかは、もうとっくに決めておられたのです。
７　ピリポは､｢こんなに大ぜいじゃ､ひと財産あっても､まだ足りないでしょうね｣と答えました。
８　シモン・ペテロの兄弟アンデレが口をはさみました。　９「この子が、大麦のパンを五つと魚を二匹持ってますよ。　でもなあ、こんなに大ぜいじゃ、焼け石に水かな？」
１０　イエスは､｢さあ､みんなを座らせなさい｣とお命じになりました。　男だけでも五千人はいたでしょうか。　それが全員、草の生えた斜面に、どやどや腰をおろしました。
１１そこで、イエスはパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、人々にお配りになりました。　また魚も同様になさいました。　みんなほしいだけ食べて、お腹はいっぱいです。
１２　イエスは弟子たちに言われました。　「さあ、少しもむだにしないよう、パンくずを集めなさい。」　１３残り物を集めると、なんと十二のかごにいっぱいです。
１４　それを見た人々は､どんなにすばらしい奇蹟が起こったのか初めて気づき､口々に､

「この方こそ､待ちに待ったあの預言者様だっ！　絶対にまちがいない！｣と叫びました。
１５　人々は熱狂して、むりやりにでも､イエスを王にまつり上げかねない勢いです。　イエスはそっと抜け出し、ただ一人、山に登って行かれました。
１６　その日の夕方、弟子たちは湖の岸辺に降りて行きました。　１７もう暗くなったのに、イエスはまだ戻られません。　そこで舟に乗り込み、カペナウムに向けて湖を渡り始めました。
１８１９ところが、しばらくこいで行くうちに、風が出てきました。　風はびゅうびゅう吹きまくり、湖も荒れだしました。　それも、だんだんひどくなる一方です。　四、五キロほどもこぎ出したでしょうか。　ふと見ると、イエスが舟のほうに歩いて来られます。あまりの恐ろしさに､ただもう震え上がるばかりです。　２０イエスが､｢こわがることはありません」と声をおかけになると、　２１やっと気を取り直し、うれしそうにイエスを舟にお乗せしました。　するとどうでしょう。　舟はすぐに目ざす地に着いたのです。
２２　朝になりました。　湖のこちら側では、大ぜいの人が、イエスに会おうと集まって来ました。　昨日、イエスをあとに残し、弟子たちだけが舟で出かけたことを知っていたからです。　２３イエスが感謝の祈りをささげ、みんなでパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来ていました。　２４イエスも弟子たちも、そこにはいないとわかると、人々は、その舟に乗り込み、イエスを捜してカペナウムまで来ました。
２５　そしてイエスを見つけると、さっそく､｢先生。　いったいどうやって、ここまでおいでになったのです？」と尋ねました。　２６「いいですか。　あなたがたがわたしのそばにいたがるのは、わたしを信じているからではありません。　パンを食べさせてあげたからですね。 ２７食べ物みたいになくなってしまうものに､心を奪われてはいけません。それよりも､永遠のいのちを手に入れる努力をしなさい。　メシヤ（救い主）のわたしは、それをあげるのです。　そのためにこそ、父なる神は、わたしをお遣わしになったのですから。｣
２８　「神様に満足していただくには、どうしたらいいんでしょうか。｣
２９　「神が遣わされた者を信じることです。　それこそ､神が望んでおられることです。｣
３０３１｢あなた様がメシヤなら､その証拠に､もっといろいろな奇蹟を見せてください。そう、毎日ただでパンを下さるとか……。　ちょうど先祖たちが荒野を旅した時、毎日パンをもらったようにね。　『モーセは天からのパンを彼らに与えた』と聖書（旧約）に書いてあるでしょう。｣
３２　「そのパンを与えたのは､モーセではありません。　わたしの父です。　そして今、父はあなたがたに、天からのほんとうのパンを下さるおつもりです。　３３ほんとうのパンとは、神から遣わされて天から来た、一人の方のことです。　その方が、世の人々にいのちを与えるのです。｣
３４　「先生。　ぜひそのパンを、一生の間、毎日下さい。｣
３５　「わたしが、そのいのちのパンなのです。　わたしのところに来る人は、二度と飢

えることがありません。　わたしを信じる人は、決して渇くことがありません。　３６ところがあなたがたときたら、どうでしょう。　前にも言ったように、わたしを見ながら信じないのですから。　全く困った人たちです。　３７けれども、父が与えてくださった人は、わたしのところに来ます。　そういう人を拒むようなことは絶対にしません。　３８わたしが天から下って来たのは、自分の思いのままにするためではなく、神の意志どおりに行なうためだからです。　３９神が与えてくださったすべての人を、一人も失わないように守り、終わりの日に永遠のいのちに復活させるのです。　４０事実、父は、子を信じる者がみな、永遠のいのちを得、終わりの日に、復活することを願っておられるのです。」
４１　ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンです」とはっきり言われたので、ぶつぶつ文句を言い始めました。
４２　「何だって！　たかがヨセフの息子イエスじゃないか。　父親も母親もいやというほど知ってらあ。　なのに、『わたしは天から下って来た』などと、とんでもないことをぬかしやがって」と彼らは叫びました。
４３　イエスはお答えになりました。　「わたしの言ったことでぶつぶつ言い合うのはやめなさい。　４４わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらない限り、だれもわたしのところへは来られません。わたしのところに来る者を一人残らず、わたしは終わりの日に復活させるのです。　４５聖書（旧約）には、『彼らはみな神によって教えられる』と書いてあります。　父の語ることばを聞き、父から真理を学んだ人たちは、わたしのところへ来ます。　４６実際に父を見た者は一人もいません。　ただわたしだけが、この目で父を見たのです。
４７　よく言っておきます。　わたしを信じている人はだれでも、すでに永遠のいのちを得ているのです。　４８そうです、わたしが、いのちのパンなのです。　４９あなたがたの先祖は、荒野で、空から降って来たパンを食べましたが、結局はみな死んでしまいました。　５０けれども、天から下って来たパンは違います。　それを食べる人は永遠のいのちをいただくのです。　５１わたしが、その、天から下って来た、いのちのパンです。　このパンを食べる人はだれでも、永遠に生きます。　このパンは、人類の救いのためにささげる、わたしの体なのです。」
５２　ユダヤ人たちは、イエスはいったい何を言っているのかと、あれこれ議論し始めました。　「なんてことを言うんだ。　自分の体を、食べさせるんだってさ。　そんなことできるもんか。」
５３　そこでイエスは、またお話しになりました。　「よく言っておきます。　メシヤの肉を食べ、その血を飲まなければ、永遠のいのちを得ることはできません。　５４けれども、わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、永遠のいのちがあります。　わたしは終わりの日に、その人を復活させます。　５５わたしの肉はほんとうの食べ物、わたしの血はほんとうの飲み物です。　５６わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、わたしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。　５７わたしは、わたし

をお遣わしになった、生ける神の力によって生きています。　同じように、わたしを食べる人は、わたしによって生きるのです。　５８わたしは、天から下って来たほんとうのパンです。　このパンを食べる人はみな、永遠に生きます。　空から降って来たパンを食べたのに死んでしまった先祖たちみたいに、死ぬことはありません。」　５９〔以上は、イエスがカペナウムの会堂でなさったお話です。〕
６０　これには、弟子たちでさえ、思わず「なんてむずかしい話だ。　さっぱりわからない」とつぶやくほどでした。
６１　それに気づいたイエスは、彼らにおっしゃいました。　「こんなことでつまずくのですか。　６２そんなことでは、メシヤのわたしが天に帰るのを見たら、いったいどう思うことでしょう……。　６３いいですか。　ただ聖霊だけが、永遠のいのちを与えてくださいます。　肉体的にこの世に生まれただけでは、絶対に、永遠のいのちの贈り物はいただけません。　いま話してあげたのは、まさにこのこと、どうしたら、ほんとうの霊的ないのちを、いただけるかということなのです。　６４だが残念なことに、あなたがたの中には、わたしを信じない者がいます。」イエスは初めから、信じない者はだれか、裏切り者はだれかを、知っておられたのです。
６５　イエスは先をお続けになりました。　「『父が引き寄せてくださらない限り、だれもわたしのところへは来られません』と言ったのは、そういう意味なのです。」
６６　この時から、大ぜいの弟子たちが、イエスとたもとを分かち、もはや行動を共にしませんでした。
６７　そこでイエスは、十二人の弟子たちにも、「あなたがたは、まさか行ってしまわないでしょうね」とお尋ねになりました。
６８　シモン・ペテロが、即座に答えました。　「何をおっしゃるんです、先生。　あなた様をさしおいて、ほかの人のところへ行くわけがないじゃありませんか！　永遠のいのちを与えることばを握っているのは、あなた様だけなんですから。　６９私たちは、そのことばを信じておりますし、あなた様が神のきよい御子だということも、存じ上げております。」
７０　「あなたがた十二人を選んだのはわたしです。　だが、なんということでしょう。悪魔が一人まぎれ込んでいます。」　７１イエスが言われたのは、イスカリオテのシモンの子ユダのことでした。　ユダは、十二人の弟子の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていたのです。
七
仮庵の祭りにおけるイエス
１　このあと、イエスはガリラヤに行かれ、村から村を巡回なさいました。　ユダヤ人の指導者たちが命をつけねらっていたので、ユダヤ以外の地に身を避けようと思われたからです。　２そうこうするうち、ユダヤの年ごとの祭りである仮庵の祭りが近づきました。
３イエスの弟たちは、祭りのためにユダヤへ行くよう、しきりに勧めました。「もっと大ぜ

いの人が奇蹟を見てくれるような所へ行ったらどうだい。　４こんな所でくすぶってても有名にはなれないよ。　兄さんがそんなに偉いんだったら、世間の人に証明してみせなくっちゃ」と、半ばあざけるように言いました。　５弟たちでさえ、イエスを信じていなかったのです。
６　「今はまだ、その時ではありません。　しかし、あなたがたはいつ行ってもいいし、いつ行こうが、別にかまいません。　７世間の人に憎まれるはずもありませんから。　だが、わたしは憎まれています。　彼らの痛いところを突くからです。　８いいから、あなたがただけで行きなさい。　わたしは、行く時が来たら行きますから。」　９こう言って、イエスはガリラヤに残っておられました。
１０　しかし、弟たちが出かけたあと、人目を忍んでこっそりお出かけになったのです。
１１ユダヤ人の指導者たちは､祭りの間にイエスを見つけ出してやろうと思い､「だれかイエスを見かけた者はいないか」と、やっきになって尋ね回りました。　１２確かに、イエスのことはいろいろ話題になりました。　「あの方はすばらしい方だ」とほめる者もいれば､「いや、違う。　とんだ食わせ物だ」と非難する者もいます。　１３しかし、だれも指導者たちの仕返しを恐れ、表立ってうわさするほど大胆な人はいませんでした。
１４　祭りも半ばになったころ、イエスは宮へ行き、おおっぴらに教え始められました。
１５それを聞いたユダヤ人の指導者たちは驚いて､「こいつは､一度も学校で学んだことがないくせに、どうして、こんなに深い知識を持ってるんだろう！」と言い合いました。
１６　「わたしの教えは、自分で考え出したことではありません。　わたしをお遣わしになった神の教えなのです。　１７ほんとうに神の望まれるとおりのことをしようと思う人なら、わたしの教えが神から出たものか、あるいはわたしから出たものか、はっきりわかるはずです。　１８自分の意見だけをまくし立てる人は、実は、わが身がほめられたい一心なのです。　しかし、自分をお遣わしになった方の栄誉を求める人は、正直者です。　１９自分ではモーセのおきてを守らないのに、どうして、おきてを破ったと、わたしを非難するのですか。　どうして命までつけねらうのですか。」
２０　群衆が答えました。　「おい、気でも変になったんじゃないか。　だれがあんたを殺そうってんだい？」
２１‐２３｢わたしが安息日に病気の人を治したら､労働をしたと驚いています。　だが､あなたがたはどうでしょうか。　モーセのおきてどおりに割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すためには〔実際は、割礼の習慣はモーセのおきてより古くからあったのですが〕､安息日でも､平気で労働するではありませんか。　割礼の日がちょうど安息日にあたっても、別だん気にもかけず、あたりまえのように割礼を施しています。　それなら､安息日に病人を元気にしてやって､どこが悪いでしょうか？　何を根拠にわたしを非難するのですか。　２４よく考えてみなさい。　わたしの言うことはまちがっているでしょうか？」
２５　エルサレムの人々の間では、互いにこんなことが言い交わされていました。　「こ

の人は、連中が殺そうとねらってる人じゃないか。　２６ところがさ、今ここで、おおっぴらに話をしてるってのに、だれも何も言わないんだからな。　指導者たちも、結局は、正真正銘のキリスト様だと認めちゃったのかね。　２７だけどさ、この人がキリスト様のわけはないよ。　どこの生まれか、身元が知れてるんだから。　キリスト様は、どこからともなく、突然、現われなさるはずだからね。」

２８　イエスは宮で、大声をあげて教えられました。　「皆さん。　確かに、わたしの生まれも、育ちもはっきりしています。　しかしわたしは、あなたがたの全く知らない方の代理なのです。　その方は真実です。　２９わたしはその方を知っています。　その方といっしょにいたのですから。　その方がわたしをお遣わしになったのです。」

３０　ユダヤ人の指導者たちは､何とかしてイエスを逮捕しようと思いました。 しかし、実際に手を出す者は一人もいません。　まだ、その時ではなかったのです。

３１　宮にいた人々の多くは、イエスを信じ、「これだけの奇蹟をなさるからには、やっぱりキリスト様じゃないだろうか」と言い合いました。

３２　パリサイ人たちは、群衆がこう考えているとわかるや、祭司長たちとぐるになり、イエスを逮捕するために、役人を差し向けました。　３３ところがイエスは、その人たちに言われました。　「まだその時ではありません。　もうしばらく、ここにいます。　そのあとで、わたしをお遣わしになった方のところに帰るのです。　３４その時には、わたしを捜しても、見つけることはできません。　また、わたしのいる所に来ることもできません。」

３５　このことばに、ユダヤ人の指導者たちはすっかり面食らいました。「こいつは、いったいどこへ行くつもりだろう。　もしかしたら、ユダヤを出て、外地のユダヤ人や、あるいは、ひょっとして外国人に教えを伝えようとでも考えてるのかもしれないな。　３６だが、捜しても見つけだせないとは、どういうことだろう。　それに、『わたしのいる所に来ることができない』とも言ったが、何のことやらまるで見当もつかない。」

３７　祭りの最後の一番大切な日に、イエスは大声で群衆に語りかけました。　「だれでも、のどが渇いているなら、わたしのところへ来て飲みなさい。　３８わたしを信じれば、心の奥底からいのちの水の川が流れ出ると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるでしょう！」　３９〔イエスは聖霊のことを言われたのです。　御霊は、イエスを信じる人すべてに与えられることになっていましたが、この時はまだでした。　イエスが、天にある栄光の座に戻っておられなかったからです。〕

４０　イエスがこう言われるのを聞いて、群衆のうちのある者は、「この人は、確かに、キリスト様のすぐ前に来るという、あの預言者だ！」と、確信をもって言いました。　４１４２「この方こそキリスト様だ！」と言いきる者もいました。　しかし、「いや、そんなはずはない。 まさかガリラヤみたいな所からキリスト様は出ないだろうよ｡キリスト様は、れっきとしたダビデ王の血筋で、ダビデ王の生地ベツレヘムの村に生まれると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるんだからな」と主張する者まで現われました。　４３こんな

ぐあいで、イエスについての意見はまちまちでした。　４４中には、逮捕したいと思う者さえいましたが、手を出すまでには至りませんでした。
４５　イエスの逮捕に向かった宮の警備員たちは、すごすごと祭司長やパリサイ人たちのところに戻るほかありません。　「どうして、やつをつかまえて来なかったのかっ！」彼らはきびしく問いただしました。
４６　警備員たちは、口ごもりながら答えました。　「は、はい。　でも、あの人の話すことが、とてもすばらしくて……。　なにせ、これまで聞いたこともないようなお話なんですから。」
４７　これを聞くと、パリサイ人たちはあざ笑いました。　「さては、おまえたちも惑わされたな。　４８われわれユダヤ人の議員やパリサイ人の中で、あいつをメシヤ（救い主）だと信じてる者が、一人でもいるか？　４９そりゃあ、無知な連中は頭から信じきってるかもしらんがね。だが、やつらに何がわかるか。　罰あたり者めが。」
５０　その時、ニコデモが口を開きました。　〔そうです。夜ひそかにイエスを訪ねた、あのユダヤ人の指導者です。〕
５１　「おことばですがね、取り調べもしないうちに、有罪だと決めるのは、合法的ではありませんな。」
５２　「おや、あなたも卑しいガリラヤ人なんですか。　まあ、聖書（旧約）を調べることですな。　ガリラヤから預言者など出るはずがないことを、ご自分の目で確かめたらどうです。」
５３　こうして、一同は散会し、めいめい家に帰りました。
八
赦された不倫の女
１　さて、イエスはオリーブ山に戻られましたが、　２翌朝早く、また宮にお出かけになりました。　たちまち人々が押しかけ、黒山の人だかりです。　イエスはゆっくり腰をおろし、話し始められました。　３その最中に、ユダヤ人の指導者やパリサイ人が、寄ってたかって、一人の女を引っ立てて来ます。　彼らは、あっけにとられて見つめる人々の目の前に、女を突き出しました。
４　「先生。　この女を見てください。　不倫の現場でつかまったんですよ。　５モーセの法律では、こういう不届き者は石で打ち殺すことになってますが、どうしたものでしょう。」
６　こう言ったのは、何かことばじりをとらえて、訴えてやろうという魂胆があったからです。　ところがイエスは、体をかがめ、指で地面に何か書いておられるだけです。　７けれども、彼らは引き下がりません。　あくまで質問を続けます。　そこで、イエスは、ゆっくり体を起こし、「わかりました。　この女を石で打ち殺しなさい。　しかしいいですか。　最初に石を投げるのは、今まで、一度も、罪を犯したことのない者ですよ」と言われました。

８　そして、すぐにまた体をかがめ、地面に何か書きつけられました。　９すると、ユダヤ人の指導者もパリサイ人も、ばつが悪そうに、年長者から順に一人去り、二人去りして、とうとうイエスと女だけが、群衆の前に取り残されました。
１０　イエスは体を起こし、女に言われました。　「はて、あなたを訴えた人たちはどこにいますか。　罰する者は一人もいなかったのですか。」
１１　「はい、先生。」
「そうですか。　わたしもあなたを罰しません。　さあ、行きなさい。　もう二度と罪を犯してはいけませんよ。」
世の光であるイエス
１２　そのあとで、イエスは人々にお話しになりました。　「わたしは世の光です。　わたしに従って来れば、暗やみでつまずくことはありません。　いのちの光が、あなたがたの進む道をあかあかと照らすからです。」
１３　すると、パリサイ人たちがぶつぶつ文句を言いました。　「自慢話もほどほどにしたらどうだい。　うそばかり並べ立てて！」
１４　「わたしはありのままを言っているのです。　うそでも、でたらめでもありません。自分がどこから来てどこへ行くか、よくわかっています。　ところがあなたがたは、全然わかっていません。　１５事実を知らないで、判決を下しているのですから。　まあ今は、とやかく言うのはやめておきましょう。　１６しかし、あなたがたをさばいたとしても、わたしのさばきは、どこから見ても正しいのです。　わたしをお遣わしになった父がいっしょにさばいてくださるからです。　１７あなたがたの法律では、ある出来事について二人の証言が一致すれば、事実と認められることになっています。　１８だとしたら、わたしとわたしをお遣わしになった父とで、りっぱに二人の証人がそろいます。」
１９　「じゃあ、そのお父上とやらはどこにいるんだい。」
「わたしのことを知らないから、父のこともわからないのです。わたしを知っていたら、父をも知っていたでしょうに。」
真理はあなたを自由にする
２０　こうした話がなされたのは、宮の中の献金箱が置いてある所でした。　しかし、だれ一人、イエスを逮捕する者はいません。　まだ、その時ではなかったのです。
２１　イエスはまた、こんな話もなさいました。「わたしはもうすぐ、いなくなります。あなたがたは必死でわたしを捜しても、結局は、罪が赦されないまま死ぬのです。　わたしが行く所へは、来られません。」
２２　ユダヤ人たちは、さっぱり、わけがわかりません。　「この人は自殺でもするつもりなのかね。　彼が行く所へ私たちは行けない、とか何とか言ってたけど、いったい、どういうことだい」と首をかしげるばかりです。
２３　そこでイエスは、言われました。　「いいですか。　あなたがたは地上に生まれた者ですが、わたしは天から来た者です。　あなたがたはこの世の者ですが、わたしは違い

ます。　２４だから、『あなたがたは罪が赦されないまま死ぬ』と言ったのです。　わたしが神の子、メシヤ（救い主）であることを信じなければ、罪ののろいの下で、死ぬしかないからです。」
２５　「あなたはいったい、どういう方なのですか。」
「そのことは、いつも、はっきり言っていたはずです。　２６あなたがたには非難したいことや、教えたいことが山ほどあります。　しかし、そうはしません。　ただ、わたしをお遣わしになった方から聞いたことだけを話してあげましょう。　その方は真実な方だからです。」　２７それでも彼らにはまだ、イエスが神のことを話しておられるのが、わかりませんでした。
２８　「わたしを殺してはじめて、あなたがたは、わたしがメシヤと気づくでしょう。　そして、わたしが自分の考えではなく、父から教わったことを話したとわかるでしょう。　２９わたしをお遣わしになった方が、いつもいっしょにおられます。　わたしをお見捨てになることはありません。　いつもその方のお心にかなうことをするからです。」
３０３１この話を聞いたユダヤ人の指導者の多くは、イエスをメシヤと信じるようになりました。
その人たちにイエスは、「わたしが教えたとおりに生活すれば、ほんとうの弟子と言えます。３２あなたがたは真理を知り、その真理があなたがたを自由にするのです」と言いました。
３３　「おことばですが、私たちはれっきとしたアブラハムの子孫です。これまで、だれの奴隷になったこともありません。　『自由にする』とはどういうことでしょう。」
３４　「それは違います。　あなたがたは一人のこらず罪の奴隷なのです。　３５奴隷には何の権利もありません。　しかし、息子は別です。　ありとあらゆる権利を持っています。　３６だから、神の子が自由にしてあげたら、それこそ、ほんとうに自由の身になるのです。　３７確かに、あなたがたはアブラハムの子孫です。　けれども、あなたがたの中には、わたしを殺そうとねらっている者がいるのです。　わたしのことばが、心にしっかり根を下ろしていないからです。　３８せっかく、わたしの父といっしょにいた時に見たことを話してあげても、あなたがたは、自分の父の言いつけに従っているだけです。」
３９　「私たちの父はアブラハムです。」彼らは、きっぱり言いきりました。
「いや、あなたがたの父がアブラハムだったら、彼の良い模範にならったはずです。　４０ところが、どうです。　反対にわたしを殺そうとしているではありませんか。　しかも、その理由がまるでおかしいのです。　わたしが神から聞いた真理を語ったからというのですから。　アブラハムなら、そんなことは絶対にしなかったでしょう。　４１そんなことをするのは、自分の父の言いつけに従っているからです。」
「私たちは私生児じゃありません。　私たちの真の父は、神ご自身です。」
４２　「ほんとうにそのとおりなら、わたしを愛したはずです。　わたしは神のもとから来たのですから。　自分の考えで、今、ここに、いるのではありません。　父が、ここにお遣わしになったのです。　４３まあ、わたしの言うことがわからないのも、むりはあり

ません。　理解できないようにされているのですから……。　４４あなたがたの父は悪魔です。　悪魔の子が、悪魔の悪い行ないを喜んでまねても、不思議ではありません。　悪魔は初めから人殺しで、真理をきらっています。　悪魔のうちには真理の一かけらもありません。　悪魔がうそをつくのは、しごく当然です。　そもそも、うそつきの元祖なのですから。　４５だから、真理を語っても、あなたがたが信じてくれないのは、あたりまえです。
４６　あなたがたのうち、だれが、たった一つでもわたしの罪を指摘できますか。　できないでしょう。　真理を話してあげるのに、なぜわたしを信じないのですか。　４７神の子供ならだれでも、神のおっしゃることを喜んで聞くはずです。　ところが、あなたがたは聞き従わないのですから、神の子供ではありません。」
４８　「あんたはサマリヤ人だ！　よそ者だ！　悪魔だっ！　そうとも、やっぱり悪魔に取りつかれてるんだ。」ユダヤ人の指導者たちはわめき立てました。
４９　イエスは「いや、断じてそんなことはありません。　わたしは父を尊敬しています。あなたがたはわたしを軽べつしているから、そんな誤解をするのです。　５０もっとも、敬意をはらってもらいたいとも思いませんが。　ただ、神が、わたしの名誉のために、わたしを受け入れない人々をおさばきになるのです。　５１よく言っておきましょう。　わたしに従う者は、いつまでも死なないのです」と言われました。
５２　「あんたが悪霊に取りつかれていることが、はっきりした。　アブラハムも、偉大な預言者たちも死んだのだ。　なのに、『わたしに従う者は死なない』などと、よく言うよ。５３ええっ、どうなんだい。　ご先祖のアブラハム様よりもお偉いのかい。　アブラハム様は死んだろうが。　それとも、あの預言者たちよりも偉いとでも？　その預言者たちも死んだがね。　いったい何様だと思ってるんだい。」
５４　イエスは、言われました。　「わたしがただ自慢しているだけなら、全くむなしいものです。　しかし、わたしに栄光を与えてくださるのは、父なのです。　この方を、あなたがたは『私たちの神様』と呼んでいます。
５５　そう呼びながら、実はこの方を知りもしません。　わたしはよく知っています。　知らないなどと言ったら、それこそ、あなたがた同様、大うそつきになります。　わたしがこの方を知り、この方に全く従っているというのはほんとうです。　５６あなたがたの先祖アブラハムは、わたしの日を思いやって喜びにあふれました。　わたしが来るとわかったからです。」
５７　「へえーっ、まだ五十にもなってないあんたがね……。　さぞかしよく、アブラハム様を見たことだろうよ。」
５８　「アブラハムが生まれるずっと前から、わたしはいたのです。　これは、まぎれもない事実です。」
５９　話がここまで来ると、もう堪忍袋の緒が切れました。　ユダヤ人の指導者たちは、手に手に石をつかみ、今にもイエスを打ち殺さんばかりのけんまくです。　しかし、イエ

スはすばやく身を避け、急いで宮を抜け出されました。
九
ただ、神の力が現わされるため
１　さて、道を歩いていた時のこと、イエスは生まれつきの盲人をごらんになりました。
２　弟子たちが尋ねました。　「先生。　どうしてこの人は、生まれつき目が見えないのです？　本人が罪を犯したからですか。　それとも両親が……？」
３　「いや、そのどちらでもありません。　ただ神の力が現わされるためです。　４わたしたちはみな、わたしをお遣わしになった方からいただいた仕事を、急いでやり遂げなければなりません。　もうすぐ夜が来ます。　そうしたら、もう仕事はできないのですから。
５だが、まだこの世にいる間は、わたしは、光を与え続けましょう。」
６　こう言われると、イエスは地面につばをし、泥をこね、それを盲人の目に塗って、　７言われました。　「さあ、シロアムの池に行って、洗い落としなさい」〔「シロアム」とは、「遣わされた者」の意味〕。　その方が言われたとおりにすると、どうでしょう。　ちゃんと見えるようになって戻って来たではありませんか！
８　近所の人や、彼が盲目のこじきだったことを知っている人はたまげ返り、「これが、あのこじきかい？」と口をそろえて叫びました。
９　こちらで「そうだ」と言えば、「いや、違う」と言う声も聞こえます。　みな、「あいつのはずはない。　だが実によく似てるな！」と思ったのです。
すると当のこじきが、「なに言ってんだい。　おれだよ」と言いました。
１０　人々はあっけにとられながらも、「いったい全体どうしたんだい。どうやって見えるようになったんだよ」と矢つぎばやに尋ねました。何が起ったのか知りたくてたまらなかったのです。
１１　その男は答えました。　「イエスという方が、泥をこねて、目に塗り、『シロアムの池に行って、泥を洗い落としなさい』と言ったのさ。　それで、そのとおりにすると、見えるようになったんだよ。」
１２　「その人は今どこにいるんだい。」
「さあ、知らないな。」
１３　人々は、男をパリサイ人たちのところへ連れて行きました。　１４ところで、この日は、たまたま安息日でした。　１５パリサイ人たちに事の一部始終を尋ねられて、男は、イエスが目に塗った泥を洗い落とすと見えるようになったいきさつを、くわしく話しました。
１６　パリサイ人のある者は、「そのイエスというやつは、神様から遣わされたんじゃないぞ。　安息日に仕事なんかしたんだからな」ときめつけます。
かと思うと、「だがな……、罪人にすぎない普通の人間に、こんな奇蹟が行なえるだろうか……」と疑問を投げかける者もいます。　意見は真っ二つに分かれました。
１７　しかたなく、その盲目だった男に、「おまえの目を開けてくれた人のことをどう思う

か」と問いただしました。
「きっと神様が遣わした預言者ですよ」と男は答えました。
１８　ユダヤ人の指導者たちは、この男が盲目だったことを、どうしても信じようとはしません。　とうとう両親まで呼び出し、　１９確かめることにしました。　「この男は息子だな。　ほんとうに生まれつき見えなかったのか。　だったら、どうして見えるようになった？」
２０　「はい、確かに息子でございます。　この子は生まれつき目が見えませんで……。
２１けれども、どうして見えるようになったのか、どなたがこれの目を開けてくださったのかは、少しも存じません。　どうぞ本人からじかにお聞きくださいまし。　もう一人前の大人ですから、自分で説明できるでしょう。」
２２２３こう言ったのは、ユダヤ人の指導者たちがこわかったからです。彼らはすでに、「イエスはメシヤ（救い主）だ」と言う者は、だれかれの区別なく会堂から除名すると公表していたのです。
２４　指導者たちは、男をもう一度呼び寄せ、きつく申し渡しました。「イエスなんかじゃなく、神様をあがめなさい。　やつは悪党だ。」
２５　「さあ、あの方が善人か悪人かは、わかりませんがね。　これだけは、はっきりしています。　私は今まで見えなかったのに、今は見えるんです。」
２６　「だが、あいつは何をした？　どうやっておまえの目を開けた？」
２７　男はまたかと腹を立て、大声で言いました。　「そのことは、もう話したではありませんかっ！　お聞きにならなかったのですか。　もう一度言えとは、どういうことでしょう。　あの方の弟子にでもなるおつもりで？」
２８　こう言われて、指導者たちは男をののしりました。　「なにっ、おまえこそあいつの弟子のくせに。　われわれはモーセの弟子だ。　２９神様はまちがいなく、モーセにお語りになった。　だが、あいつはどこの馬の骨かわかるもんか！」
３０　「これは驚きました。　あの方は盲人の目を開けることができるんですよ。　なのに、あの方のことは何も知らないとおっしゃる。　３１神様は悪人の言うことはお聞きになりません。　しかし、神様を礼拝し、お心にかなうことを行なう者には、耳を傾けてくださるんじゃありませんか。　３２世の初めからこのかた、生まれつきの盲人の目を開けた人など、いたためしがありません。　３３神様から遣わされた方でなければ、こんなことはできないはずです。」
３４　こうまで言われては、もう我慢ができません。　「このろくでなしめっ！　われわれを教えようとでもいうのかっ！」とどなりつけたあげく、男を追い出してしまいました。
３５　そのいきさつを伝え聞いたイエスは、男をお捜しになり、見つけ出されると、「あなたはメシヤを信じますか」とお聞きになりました。
３６　「先生。　どなたがメシヤ様で？　教えてください。　ぜひ信じたいのです。」
３７　「もうその人に会っているのですよ。　あなたと話しているわたしがメシヤなので

す。」
３８　「主よ。　信じます。」男はそう言って、イエスを礼拝しました。
３９　すると、イエスは言われました。　「わたしがこの世に来たのは、心の目の見えない人を見えるようにするため、また、見えると思い込んでいる人に、実は盲目だということを、わからせるためなのですよ。」
４０　ちょうどその場に居合わせたパリサイ人たちが、けげんそうに尋ねました。　「なんですか、じゃあ、私たちも盲目だと言うのか？」
４１　「もしあなたがたが盲目だったら、罪に問われないですんだでしょう。　しかし、何もかもわかっているとあくまで言いはるので、あなたがたの罪はそのまま残るのです。」
□
一〇
良い羊飼いであるイエス
１　「よく言っておきます。　羊の囲いの中に、門から入らないで、柵を乗り越えて忍び込む者は、強盗に違いありません。
２羊飼いなら、堂々と門から入って来るはずです。　３門番も羊飼いには門を開けてくれます。　彼の声を聞くと、羊は回りに駆け寄って来ます。　羊飼いは一匹一匹自分の羊の名を呼んで連れ出すのです。　４先頭に立つのは羊飼い､羊はそのあとについて行きます。声を知っているからです。　５知らない人にはついて行きません。 反対に逃げ出します。聞き覚えのない声だからです。」
６　イエスがこのたとえ話をなさっても、聞いている人々には、どういう意味かさっぱりわかりません。　７そこで、イエスは説明なさいました。
「いいですか。　わたしが、羊の出入りする門なのです。　８わたしより前に来た人々はみな、どろぼうか強盗です。　ほんとうの羊は、彼らの言うことは聞きませんでした。　９そう、わたしは門なのです。　この門から入る者は救われます。　また、安心して出入りができ、緑の牧草を見つけるのです。　１０強盗は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするために来ます。　しかしわたしが来たのは、いのちを、あふれるほど豊かに与えるためです。
１１　わたしはまた、良い羊飼いです。　良い羊飼いは羊のためにはいのちも捨てます。
１２雇い人は、狼が来れば、羊など見向きもせず、自分だけ、すぐに逃げ出します。　羊の持ち主でも、羊飼いでもないからです。　こうして狼は羊にとびかかり、群れを追い散らしてしまうのです。　１３雇い人は、ただ、お金で雇われているだけです。　羊のことを、ほんとうに心にかけているわけではないので、平気で逃げてしまうのです。
１４　わたしは良い羊飼いであり、自分の羊を知っています。　また羊もわたしを知っています。　１５わたしの父がわたしを知っておられ、わたしも父を知っているのと同じです。　わたしは羊のためにいのちを捨てるのです。　１６このほかに、別の囲いにも羊がいます。　その羊をも導かなければなりません。　やがてその羊も、わたしの声に注意深

く聞き従い、一人の羊飼いのもとに一つの群れとなるのです。
１７　わたしが、再びいのちを得るために、いのちを投げ出すからこそ、父はわたしを愛してくださいます。　１８だれもわたしの意に反して、わたしを殺すことはできません。自分から進んでいのちを捨てるのです。　わたしには、いのちを自由に捨て、もう一度それを得る権威と力があるからです。　父がこの権威を下さったのです。」
１９　この話のことで、ユダヤ人の指導者たちの意見は、また真っ二つに分かれました。
２０「こいつは悪霊に取りつかれてるか、それとも気が変になってるかだ。　こんなやつの言うことに耳を貸す必要なんかあるもんか」と息まく者があるかと思えば、　２１「いいや、とても悪霊に取りつかれた者のことばとは思えないな。　だいいち、悪霊に盲人の目を開けることなんかできるはずもないだろう」と言い返す者も出るというしまつです。
宮きよめの祭りにおけるイエス
２２２３時は冬でした。　宮きよめの祭りがあり、イエスもエルサレムにおられました。ちょうど、宮の中のソロモンの廊と呼ばれる所を歩いておられると、　２４ユダヤ人の指導者たちが来て、まわりを取り囲みました。　「いつまで気をもませるつもりです？　キリスト様なら、はっきりそう言ったらいいでしょう。」
２５　彼らの質問に、イエスはお答えになりました。　「そのことだったら、もう話しました。　もっとも、あなたがたは信じませんでしたが。　父の御名によって、何度も奇蹟を行なったでしょう。　証拠はそれで十分なはずです。　２６それでも、あなたがたはわたしを信じないのです。　あなたがたはわたしの羊の群れに属さないのですから、しかたがありません。　２７わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。　わたしは彼らを知っているし、彼らもわたしにはついて来ます。　２８わたしは彼らに永遠のいのちを与えるのです。　だから、絶対に滅びたりはしません。　だれも、わたしの手から彼らを奪い取ることはできません。　２９父がわたしに下さった群れなのですから。　父はだれよりも力があります。　わたしの羊をさらうことなんか、だれにもできません。　３０わたしと父とは一つです。」
３１　これを聞いて、ユダヤ人の指導者たちは、にわかに石をつかみました。　イエスを打ち殺そうというのです。
３２　「わたしは、神の指図どおり、たくさんの奇蹟を行なって、人々を助けただけです。そのどこがいけなくて殺されなければならないのでしょうか？」
３３　「なにも良い行ないを責めてるわけじゃない。　神様を汚したからだ。　ただの人間のくせに、神だなどとぬかしおって！」
３４　「あなたがたの律法には、『わたしは言った。　「あなたがたは神神だ」』と書いてあるではありませんか。　３５無効になることのありえない聖書が、神のことばを受けた人々を神々と呼んでいるのです。　３６とすれば、父がきよめ分かち、この世にお遣わしになった者が、『わたしは神の子だ』と言うのが、どうして神を汚すことになるのですか。
３７わたしが神の奇蹟を行なっていないのなら、わたしを信じなくてかまいません。　３

８しかし、もし神の奇蹟を行なっているのなら、わたしを信じないにしても、奇蹟そのものは信用しなさい。　父がわたしのうちにおられ、わたしが父のうちにいることが、はっきりわかるでしょう。」
３９　彼らが、またも逮捕しかねない勢いなので、イエスはうまくその場を切り抜けられ、エルサレムをあとになさいました。　４０そして、ヨルダン川を渡り、ヨハネが最初にバプテスマ（洗礼）を授けていたあたりにおられましたが、　４１ここでも、大ぜいの人が、あとからあとから詰めかけます。
彼らは口々に言いました。　「ヨハネは一つも奇蹟を行なわなかったけど、この方について話したことは、何もかもそのとおりになったな。」　４２こうして、大ぜいの人が、イエスこそメシヤ（救い主）だと信じるようになったのです。
一一
ラザロの死
１２マリヤのことを覚えていますか。　イエスの足に高価な香油を注ぎ、それを髪でぬぐったあの婦人です。　さて、そのマリヤの兄弟ラザロが病気になりました。　彼と、マリヤ、その姉のマルタはいっしょにベタニヤに住んでいました。　３マルタとマリヤはイエスのもとに使いをよこしました。　「先生。　あなた様が目をかけてくださったラザロが重い病気にかかり、明日をも知れない状態です。」
４　この知らせを聞いたイエスは、言われました。　「この病気は、ラザロが死んで、それで終わりということにはなりません。　神の栄光が現わされるためですから。　神の子のわたしが、栄光を受けるのです。」
５　イエスは、マルタたち三人を心から愛しておられました。　６けれども、なぜか、なお二日間そこにいて、なかなか腰を上げようとはなさいません。　７二日たって、ようやく、「さあ、ユダヤに行きましょう」と、弟子たちに言われました。
８　ところが、もうれつな反対が返ってきたのです。　「なんてことを、先生！　つい先日、ユダヤ人の指導者たちが、先生を殺そうとしたのをお忘れですか！　なのに、また、のこのこと出かけて行くなんて全く非常識です。」
９　「昼間は十二時間あります。　その間に歩けば、安全で、つまずくこともありません。
１０ところが、夜歩いたらとても危険です。　暗くて、足を踏みはずすかもしれませんから。」イエスはこうお答えになってから、　１１さらに続けられました。　「友達のラザロが眠っています。　彼を起こしに行かなくては。」
１２１３これを、ラザロが夜ぐっすり眠れたものと勘違いした弟子たちは、「じゃあ、病状はよくなってるんですね」と聞き返しました。　しかしイエスは、ラザロは死んだと言われたのです。
１４　そこで、今度は、はっきりとおっしゃいました。　「ラザロは死んだのです。　１５わたしがその場に居合わせなくてよかったのです。　これでまた、あなたがたがわたしを信じる機会が増えるのですから。　さあ、彼のところへ出かけましょう。」

１６　ここで、「ふたご」とあだ名されているトマスが、「おい、みんなで行ってさ、先生とごいっしょに死のうじゃないか」と、仲間の弟子たちに誘いかけました。
１７　一行がベタニヤに着いてみると、もう手遅れでした。　ラザロはすでに墓に葬られ、四日にもなるというのです。　１８ベタニヤは、エルサレムからわずか三キロほどの所でしたので、　１９ユダヤ人たちが大ぜい、お悔やみに詰めかけていました。　マルタとマリヤが慰めのことばを受けているところへ、　２０イエスのおいでが知らされました。マルタはそれを聞くと、取る物も取りあえず、迎えに駆けつけました。ところが、マリヤは家の中にじっと座ったままでした。
２１　マルタはイエスに訴えました。　「先生！　あなた様が、あなた様さえいてくださったら、ラザロは死なずにすみましたものを……。　２２でも、まだ遅くはありません。あなた様が神様にお願いしてくだされば、生き返らせていただけますもの……。」
２３　イエスは言われました。　「そのとおりです。　ラザロは生き返るのです。」
２４　「はい。　いつかすべての人が復活する日には、もちろん……。」
２５　「このわたしが、死人を生き返らせ、もう一度いのちを与えるのです。　わたしを信じる者は、たといほかの人と同じように死んでも、また生きるのです。　２６わたしを信じて永遠のいのちを持っているからです。　滅びることなど絶対にありません。　このことを信じますか、マルタ。」
２７　「はい、先生。　あなた様こそ、長いあいだ待ち続けてきた神の子キリストだと、信じております。」
２８　マルタは、家に戻り、マリヤをわきへ呼んでそっと耳うちしました。　「先生がね、すぐそこまでおいでになって、あんたに会いたいって言ってらしたわよ。」　２９そこでマリヤは、すぐにイエスのところへ出かけて行きました。
イエス、ラザロを生き返らす
３０　さて、イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられました。　３１マリヤを慰めていたユダヤ人たちは、彼女がそそくさと出て行くのを見て、きっと墓へ泣きに行くのだろうと思って、あとについて行きました。
３２　マリヤは、イエスのところまで来ると、くずおれるように足もとにひれ伏し、涙ながらに言いました。　「ああ、先生……。　あなた様さえいてくださったら、ラザロは、ラザロはまだ生きて……。」
３３　イエスは、目の前でマリヤが泣き伏し、ユダヤ人たちもいっしょに嘆き悲しんでいるのに強く心を打たれ、動揺なさった様子です。　３４「ところで、ラザロの墓は？」とおっしゃいました。
「来て、ごらんください。」　３５イエスの目に涙があふれました。
３６　「お気の毒になあ、心底ラザロを愛しておられたんだよ。　二人はほんとうに親しかったのだ。」ユダヤ人たちはこう言い合いました。
３７　しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人でも、ラザロを生かしておくことはでき

なかったのかね」と、非難がましく言う人もいました。　３８これを聞いたイエスは、またも心に深い憤りをお感じになりました。　墓に着きました。　それはほら穴で、入口には重い石が立てかけてあります。
３９　「さあ、石をわきにどけなさい。」イエスは人々をうながされました。
マルタがあわてて押しとどめました。　「でも、もうひどいにおいがしてますわ。　なにしろ、死んでから今日で四日ですもの。」
４０　イエスは、マルタにおっしゃいました。　「もし信じるなら、神のすばらしい奇蹟を見る、と言ったはずですよ。」
４１　人々は言われるままに石を取りのけました。　イエスは天を見上げ、「父よ。　願いを聞いてくださってありがとうございます。　４２もちろん、いつも聞いてくださることはわかっています。　ただ、ここに立っているみんなにもわかるように、こう申し上げたのです。　あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じてもらいたいからです」と祈られました。　４３それから、大声で、「ラザロよ。　出て来なさいっ！」とお命じになりました。
４４　すると、どうでしょう。　布でぐるぐる巻かれた姿のまま、ラザロが出て来たではありませんか！　顔も布で包まれたままです。　イエスはあっけにとられている人々に言われました。　「さあ、早く布をほどいてやって、帰らせなさい。」
４５　マリヤについて来て、この出来事を見た大ぜいのユダヤ人も、ついにイエスを信じるようになりました。　４６しかし、パリサイ人たちのところへ行き、事細かに、このことを報告する者も何人かいました。
４７　そこで、祭司長やパリサイ人たちは、この問題を協議するため、さっそく議会を召集したのです。　たいへんな議論になりました。　「あいつが確かに奇蹟を行なっているというのに、いったい何をぐずぐずしているのか。　４８あいつをこのまま放っておいてみろ。　国民一人残らずあいつを信じるようになってしまうぞ。　そんなことにでもなったら、取り返しがつかない。　ローマ軍が踏み込んで来て、われわれを殺し、ユダヤ政府を乗っ取るだろう。」
４９　すると、その年の大祭司カヤパが、業をにやして言いました。「ばかを言うな。　こんなこともわからないのか。　５０全国民の代わりに、やつ一人に死んでもらえば事はすむのだ。　国民全体が滅びるなんて、冗談じゃない。」
５１　イエスが全国民の代わりに死ぬことを、ほかでもない大祭司カヤパが預言したのです。　カヤパは、自分で考えたのではありません。そう言うように、聖霊に導かれたのです。　５２これは、イエスが、イスラエル人ばかりか、世界中に散らされているすべての神の子供たちのためにも死んでくださるという預言でした。　５３この時から、ユダヤ人の指導者たちは、イエスを殺す、うまい計画をあれこれ練り始めました。
５４　そんなこともあって、イエスは、人前でおおっぴらに活動するのをやめ、エルサレムをあとにされました。　そして、荒野に近いエフライムの村で、しばらく弟子たちと共

に身を潜めておられました。
５５　ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。　この時は、大ぜいの人が各地からエルサレムに集まります。　みな祭りの始まる前にきよめの儀式をすませようと、数日前には着くように出かけて来るのです。　５６人々はイエスに会いたいと思いました。　宮のあちこちで、「どうだろうね。　あの方は、祭りにいらっしゃるかな」と、しきりにうわさし合う声が聞こえます。　５７一方、祭司長やパリサイ人たちの頭には、イエスを逮捕することしかありません。　「イエスを見かけた者は、直ちに届け出よ」という命令を出していました。
一二
イエスに香油を注ぐマリヤ
１　過越の祭りの始まる六日前に、イエスはベタニヤにお着きになりました。　いつか生き返らせてやった、あのラザロがいる村です。　２さっそく晩餐が用意されました。　マルタは給仕にいとまがありません。　ラザロはイエスといっしょに食卓に着いています。３そこへマリヤが、香油のつぼを手に、入って来ました。　それは、ナルドから作った純粋な香油で、とても高価なものです。　マリヤはイエスのそばに歩み寄ると、驚いたことに、その香油をイエスの足に注いだのです。　それから、ていねいに髪でぬぐいました。たちまち家中にすばらしい香りがたちこめました。
４　ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが、非難がましく言いました。　５「やれやれ、この香油はひと財産ものだよ。　売って、その代金を貧しい人たちに恵んでやればよさそうなものなのに。　全くもったいない話だ。」　６こう言ったのは、貧しい人たちのことを心にかけていたからではありません。　仲間の会計をいっさい任されているのをいいことに、使い込みを重ねていたからです。
７　イエスはお答えになりました。　「したいようにさせておきなさい。　マリヤは、わたしの葬りの準備をしてくれたのです。　８貧しい人たちは、いつでも助けてあげられます。　だが、わたしはもう、それほど長くいっしょにはいられないのですから。」
９　エルサレムの市民は、イエスがおられると聞いて、どっとラザロの家に押しかけました。　イエスに会うためばかりではありません。　一度死んで生き返ったラザロを、一目見たいとも思ったのです。　１０これには、祭司長たちも頭をかかえ込み、いっそのことラザロも殺してしまおうと相談しました。　１１ラザロのことで、大ぜいのユダヤ人がユダヤ教から離れ去り、イエスをメシヤ（救い主）と信じるようになったからです。
エルサレムにおけるイエスの最後の宣教
１２　翌日､イエスがエルサレムに向かわれるというニュースが町中に広まりました。 過越の祭りで上京した人々は、　１３「それ、イエス様をお迎えしろ」と、手に手にしゅろの枝を振りかざして駆けつけます。　沿道はたちまち人の波、波、波……。　あちこちで大歓声が上がります。
「救い主様一っ！

イスラエルの王様ばんざーいっ！
神の大使ばんざーいっ！」
１４　イエスはろばの子に乗っておられました。　こうして、預言どおりのことが起こったのです。
１５　「イスラエルの民よ。
あなたがたの王を恐れるな。
王は柔和で、ろばの子に乗って、
来られるのだから。」
１６　〔この時、弟子たちにはまだ、この出来事が預言どおりに起こったとは、思えませんでした。　しかし、イエスが天にある栄光の座に帰られたあと、「そういえば、あの事も聖書にあるとおりだった。　この事も預言どおりだった」と、一つ一つ思い当たることばかりでした。〕
１７　群衆の中には、イエスがラザロを生き返らせる現場を目撃した人たちの顔もちらほら見られます。　彼らは事件の一部始終をふれ回っていました。　１８こんなに大ぜいの人がイエスを出迎えたのも、実を言えば、そのすばらしい奇蹟のことを聞いたからなのです。
１９　この有様に、パリサイ人たちは、とうとうやけを起こしてしまいました。　「なんてことだっ！　見ろ。　みんな、あいつについて行ったじゃないかっ！」
２０　さて、過越の祭りに加わろうと、エルサレムに来ていた数人のギリシヤ人が、　２１ベツサイダ出身のピリポのところへ来て、「先生。ぜひともイエス様にお会いしたいのですが」と頼み込みました。　２２ピリポはアンデレにそのことを話し、二人でお願いしようということになりました。
２３　イエスはお答えになりました。　「いよいよ、わたしが天にある栄光の座に帰る時が来たのです。　２４よく言っておきます。　畑にまかれる一粒の麦のように、わたしも地に落ちて死ななければなりません。　そうしなければ、いつまでたっても、一人のまま、一粒の種のままです。　だが、死ねば、多くの新しい実が生じ、新しいいのちが豊かに実を結ぶことになります。　２５この地上のいのちを愛するなら、結局はそれを失うだけです。　しかし、地上のいのちに執着しなければ、代わりに永遠の栄光を受けるのです。
２６　わたしの弟子になりたい者は、ついて来なさい。　わたしに仕える者は、わたしのいる所にいなければならないのですから。　わたしに従う者を、父は重んじてくださるのです。　２７だが、今いったい、わたしはどうしたらいいのでしょうか……。　『父よ。行く手に待ちかまえていることからお救いください』と祈るべきでしょうか。　ああ、だが、このために、このためにこそ、わたしは来たのです……。　２８父よ。　どうぞあなたの栄光を現わし、あなたの名が、あがめられるようにしてください！」
その時、天から声が聞こえました。　「わたしはすでにそうしたし、また、もう一度そうしよう。」

２９　この声を聞いた群衆はかってに想像をめぐらし、「雷が鳴ったのだ」と思う者もあれば、「御使いが語りかけたのだ」と言いはる者もいるというしまつでした。
３０　そこで、イエスは群衆に言われました。　「この声が聞こえたのは、わたしのためではありません。　あなたがたのためです。　３１さばきの時が来ています。　この世の支配者サタンは追い出されるのです。　３２わたしは十字架の上に上げられる時、すべての人をわたしのもとに引き寄せましょう。」　３３こう言われたのは、自分がどのような死に方をするかを示されるためでした。
３４　「あなた様が死ぬですって？　メシヤ（救い主）様は永遠に生きていて、絶対に死んだりなさらないものと思っておりましたのに。　どうして、そんなことをおっしゃるのです？　いったいどんなメシヤ様のことを言っておられるのですか。」
３５　「もうほんのしばらくの間、わたしの光はあなたがたのために輝いています。　光のある間に光の中を歩きなさい。　暗やみが襲って来る前に、行こうと思う所に行きなさい。　襲って来てからでは遅すぎます。　道を見つけることもできません。　３６まだ時間のある間に、光を十分に用いなさい。　そうすれば、光の子になれるのです。」イエスは、こう話し終えられると、そこを立ち去り、身を隠されました。
３７　ところが、イエスがあれほど多くの奇蹟をなさったにもかかわらず、大部分の人は、イエスをメシヤとは信じませんでした。　３８まさに、イザヤが預言したとおりです。「主よ。　だれが私たちのことばを信じるのですか。　だれが、神様の力強い奇蹟を、証拠と認めるのですか。」　３９人々は信じることができませんでした。　イザヤは次のようにも言っています。　４０「神は彼らの目を盲目に、心をかたくなにされた。　彼らが見ることも、理解することも、わたしのもとに立ち返っていやされることもないためだ。」　４１この預言は、イエスのことを指しています。　イザヤは、メシヤの栄光の幻を見て預言したからです。
４２　それでも、だれも信じなかったというわけではありません。　ユダヤ人の指導者の中にさえ、イエスをメシヤと信じる者がかなりいました。　ただ、パリサイ人たちに会堂から除名されるのがこわくて、そのことを打ち明ける気になれなかったのです。　４３神にほめていただくことよりも、人にほめられることのほうを重んじたからです。
４４　イエスは大声で、群衆に語りかけました。　「わたしを信じて任せきる人は、ほんとうの意味で神を信じているのです。　４５わたしを見るのは、わたしをお遣わしになった方を見るのと同じだからです。　４６わたしは、この暗い世に輝く光として来ました。わたしを信じる人がだれも、もはや暗やみの中をさまようことのないためです。　４７わたしのことばを聞きながら従おうとしない人がいても、あえてさばきはしません。　わたしが来たのは、世の人々を救うためで、さばくためではないからです。　４８しかし、わたしを退け、わたしの言うことを受け入れないすべての人をさばくものがあります。　わたしの語った真理が、終わりのさばきの日に、その人をさばくのです。　４９その真理は、わたしがかってに考え出したことではなく、父が語れとお命じになったことだからです。

５０神の命令は、人を永遠のいのちに導きます。　だから、神が語れと言われたことを、何でもそのとおり語っているのです。」
一三
イエス、弟子の足を洗う
１　過越の祭りの前に、イエスは、いよいよ、この世を去って父のもとに帰る最後の時が来たと覚悟を決め、弟子たちを最後まで徹底的に愛しとおされました。　２夕食の間のことです。　悪魔はすでに、シモンの子、イスカリオテのユダに、今夜こそ、かねてからの計画を実行に移す絶好の時だという考えを、吹き込んでいました。　３イエスは、父がすべてのものを与えてくださったことと、自分が神のもとから来て、また神のもとに帰ろうとしていることを知り、　４夕食の席から、ゆっくり立ち上がられ、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれました。　５そして、たらいに水を入れ、弟子たち一人一人の足を洗い、腰の手ぬぐいでふき始められたのです。
６　シモン・ペテロの番になりました。　ペテロは言いました。　「主よ。　足を洗っていただくなど、もったいなくてとてもできません。」
７　「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。　だが、あとでわかるようになります。」
８　「いいえ。　わからなくてもけっこうです。　どうかもう、おやめください」とペテロは言いはります。
「だが、足を洗ってあげなければ、わたしの仲間にはなれません。」
９　これには、ペテロもすっかりあわてて、「そ、それなら、足だけとおっしゃらず、手も、それに頭も！」と叫びました。
１０　「水浴した者は、足だけ洗えば、全身きれいになります。　今あなたがたはきれいなのです。　もっとも、みんながみんな、というわけではありませんが。」　１１イエスは、だれが裏切り者かちゃんとお見通しだったので、「みんながみんな、きれいなわけではありません」と言われたのです。
１２　弟子たちの足を洗い終えると、また上着をきて、席に戻り、改めてお尋ねになりました。　「わたしのしたことがわかりますか。　１３あなたがたはわたしを『先生』とも『主』とも呼んでいます。　それはかまいません。　まさにそのとおりなのですから。　１４その、主でも先生でもあるわたしが足を洗ってあげたのですから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい。　１５わたしは模範を示したのです。　わたしがしたとおりに、あなたがたもしなさい。　１６使用人は主人より偉くはないし、遣わした本人より使者のほうが大物だということもありえません。　１７このことがわかったら、すぐ実行しなさい。これこそ祝福される道です。
１８　あなたがた全員に、こう言っているのではありません。　あなたがたを選んだのは、このわたしです。　ですから、一人一人がどんな人間かよく知っています。　聖書（旧約）には、『わたしと食事を共にしている者が、わたしを裏切る』とはっきり書いてあるでしょ

う。　いいですか。　まもなく、そのとおりのことが起こるのです。　１９今そのことを話しておきましょう。　その時になって、あなたがたがわたしを信じられるように。
２０　よく言っておきます。　わたしが遣わす者を心から受け入れる人はだれでも、わたしを受け入れるのです。　そして、わたしを心から受け入れることは、わたしをお遣わしになった父を受け入れることなのです。」
新しい戒めを与えるイエス
２１　ここでイエスは、込み上げる霊の悲しみを抑え、叫ばれました。「そうです。　まぎれもない事実なのです。　あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切るのです！」　２２弟子たちは、だれのことか見当もつきません。　きょとんとして顔を見合わせるばかりです。　２３ところで、私は日ごろから特に目をかけていただいていたので、食卓では先生の隣に座っていました。　２４だからでしょうか、シモン・ペテロが私に、「そんな恐ろしいことをしでかすのは、いったいだれか聞いてくれ」と合図を送ってきました。
２５　そこで私は、先生に、「主よ。　だれがそんなことを？」と尋ねました。
２６　「わたしが手ずからスープに浸したパンを与える者がそうです。」
こう言われると、イエスはパンを浸し、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられたのです。
２７　ユダがそのパンを口に入れるが早いか、サタンがユダの心に入り込みました。　そこで、イエスはユダに、「さあ、急いで、することをしなさい」と言われました。
２８　食卓に着いているほかの者はみな、何のことやら、さっぱりわかりません。　２９ユダが一行の会計係だったので、おおかた、食べ物の代金の支払いか、貧しい人々に金を恵むことぐらいだろう、と思った者もいました。　３０ユダはぱっと席を立つと、夜のやみに飛び出して行きました。
３１　ユダが姿を消すとすぐ、イエスが言われました。　「時が来ました。　神の栄光がわたしの回りに輝き渡るのも、時間の問題です。　同時にまた、わたしの身に起こるすべてのことゆえに、神も大いにほめたたえられるでしょう。　３２神はわたしに、ご自分の栄光を与えてくださるのです。　それも、すぐに。　３３心から愛してやまない子供たちよ。　ああ、もう時間がありません。　あなたがたを残して行かなければならないのです……。　その時には、いくらわたしを捜しても、わたしのところへ来ることはできません。そう、ユダヤ人の指導者たちにも言っておいたとおりです。
３４　そこで今、新しい戒めを与えましょう。　わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい。　３５互いに心から愛し合うなら、わたしの弟子であることが、だれの目にもはっきりするのです。」
３６　さっそく、シモン・ペテロが尋ねました。　「主よ。　いったい、どこへいらっしゃるのですか？」
「あなたは、今はついて来れません。　しかし、ずっとあとになって、ついて来ます。」
３７　「でも、どうしてですか。　どうして今はだめなのですか。　あなた様のためなら

死ぬ覚悟もできてます。」
３８　「わたしのために死ぬ、と言うのですか。　いや違います。　そう言うあなたが、明日の朝、鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言いはるのです。」
一四
１　「どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。　神を信じ、何もかも、わたしに任せなさい。　２父の住んでおられる所には、家がたくさんあります。もしなかったら、はっきり言っておいたでしょう。　実を言えば、あなたがたを迎える家を準備しに行くのです。　３すっかり準備ができたら、迎えに来ます。　わたしがいる所に、いつでも、いられるようにしてあげるためにです。
４これだけ言えば、わたしがどこへ行くか、どうしたらそこへ行けるか、もうわかったでしょう。」
５　するとトマスが、言い返しました。　「いいえ、ちっともわかりません。　先生がどこへおいでになるのか、まるで見当もつきません。　まして、そこへ行く道など、どうしてわかりましょう。」
６　イエスはトマスにおっしゃいました。　「いいですか。　わたしが道です。　そして真理でもあり、いのちでもあります。　わたしを通らなければ、だれ一人、父のところへは行けません。　７わたしがどういう者か知っていたら、わたしの父のこともわかったはずです。　今から、あなたがたは父を知る、というより、もうすでに父を見ているのです。」
８　今度はピリポが口をはさみました。　「先生。　あなたのお父様を見せてください。それだけで十分ですから。」
９　「ピリポ。　こんなに長くいっしょにいるのに、わたしがどういう者か、まだわからないのですか。　わたしを見た者は、父を見たのです。　それなのにどうして父を見せてくださいなどと言うのですか。　１０わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられることを信じないのですか。　いいですか。　わたしは自分の考えを話しているのではありません。　わたしのうちに住んでおられる父の命じるままに話しているのです。　父は、わたしを通して、働きをなさいます。　１１わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられる、ただこのことを信じなさい。　もし信じられないなら、わたしが見せてあげた力ある奇蹟を思い出してごらんなさい。　そうしたら信じられるでしょう。
１２　よく言っておきます。　わたしを信じる者はだれでも、わたしと同じ奇蹟を行なうばかりか、それよりもさらに大きな奇蹟さえ行なうのです。　わたしが父のもとに行くからです。　１３わたしの名を使って、父に願い求めなさい。　どんなことでもかまいません。　必ずかなえてあげます。　それもみな、父がほめたたえられるためです。　１４そうです。　わたしの名によって、どんなことでも願い求めなさい。　必ずかなえてあげます。
イエス、もう一人の助け主（聖霊）を送ると約束する
１５　わたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。　１６父に、もう一人の助け主

を送っていただくよう、お願いしましょう。　その助け主は、絶対にあなたがたを離れません。　１７その方とは聖霊、すなわち、すべての真理へと導いてくださる御霊のことです。　世間の人は、この方を受け入れることはできません。　この方を求めもしなければ、認めようともしないからです。　しかし、あなたがたはこの方を知っています。　あなたがたと共に住み、あなたがたのうちにおられるからです。　１８そうですとも。　わたしがあなたがたを見捨てたり、嵐のまっただ中に、孤児のように置き去りにしたりなどするものですか。　必ずあなたがたのところに帰って来ます。　１９もうすぐ、わたしはこの世を去りますが、それでもなお、いっしょにいるのです。　わたしは再び生き返り、あなたがたもいのちを受けるからです。　２０わたしが復活する時、あなたがたは、わたしが父のうちにおり、あなたがたが、わたしのうちにおり、またわたしが、あなたがたのうちにいることがわかります。　２１わたしに従い、わたしの戒めを守る人は、わたしを愛する人です。　わたしを愛する人を、父は愛してくださいます。　わたしもまたその人を愛し、わたし自身を現わします。」

２２　ユダ〔イスカリオテのユダではなく、同名の他の弟子〕がイエスに、不思議そうに尋ねました。　「先生。　私たち弟子にだけ、ご自分を現わそうとなさって、世間の人に現わそうとなさらないのは、どうしてですか。」

２３　イエスはお答えになりました。「わたしを愛し、わたしのことばを守る人にだけ、わたしは自分を現わすのです。　父もまた、そういう人を愛してくださいます。　わたしたちはその人のところに来て、その人といっしょに住みます。　２４わたしのことばを守らない人は、わたしを愛していないのです。　わたしは、自分で考え出したことを話しているのではありません。　わたしをお遣わしになった父が教えてくださったことを話しているのです。　２５今、まだあなたがたといっしょにいる間に、このことをみな話しておきます。　２６しかし、父がわたしの代わりに助け主〔聖霊のこと〕を送ってくださる時には、わたしが話しておくことを、その方がみな思い出させてくださるばかりか、それ以上のことを、いろいろ教えてくださるのです。

２７　ところで、贈り物をあげましょう。　そう、あなたがたの思いと心を安らかにしてあげる、それがわたしの贈り物です。　わたしが与える平安は、この世が与える、はかない平安とは比べものになりません。　だから、どんな時にも、おろおろしたり、恐れたりしてはいけません。　２８『わたしは行くが、また戻って来る』と言ったことを思い出しなさい。　ほんとうにわたしを愛しているなら、わたしのために心から喜んでくれるはずです。　今わたしは、父のもとに行けるのですから。　父はわたしよりも偉大です。　２９わたしは、まだ起こらないことを前もって話しました。　それが起こった時に、あなたがたがわたしを信じるためです。

３０　もう、あまり多くのことを話す時間がありません。　この世の悪い支配者が、そこまで近づいているからです。　彼はわたしに何もできません。　３１わたしは、父がせよとおっしゃることを進んで実行します。　わたしが父を愛していることを、世の人が思い

知るためです。　さあ、出かけましょう。
一五
すばらしい実を結ぶために
１　わたしはほんとうのぶどうの木、わたしの父はぶどう園の農夫です。　２父は、実のならない枝をみな切り落とし、実のなる枝は、もっとたくさんなるように、余分な枝を整理なさいます。　３父はいっそう強く、役立つ者にしようと、すでに、あなたがたの枝を整理してくださいました。　わたしが与えた命令という、はさみを使って、きれいに手入れをすまされたのです。　４わたしのうちに生きるよう心がけなさい。　またわたしが、あなたがたのうちに生きられるようにしなさい。　枝は幹につながっていなければ、実を結べないでしょう。　同じようにあなたがたも、わたしから離れたら、実を結ぶことなど、とてもできません。
５　そうです。　わたしがぶどうの木で、あなたがたはその枝なのです。　人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きていれば、その人は実をいっぱい結びます。　わたしを離れては何もできません。　６わたしから離れる者はだれでも、役に立たない枝のように投げ捨てられ、枯れてしまいます。　最後には、ほかの枝といっしょに積み上げられ、焼かれてしまうのです。　７しかし、もしわたしのうちにとどまり、わたしの命令に従うなら、何でもほしいものを求めなさい。　きっとかなえられます。　８わたしのほんとうの弟子は、実をいっぱい結びます。　そのことによって、父が大いにほめたたえられるのです。
９　父がわたしを愛してくださったように、わたしもあなたがたを愛しました。　わたしの愛のうちに生きなさい。　１０わたしの戒めを守るなら、わたしの愛のうちに生き続けます。　わたしが父の戒めを守り、父の愛のうちに生きているのと同じです。　１１このことを話したのは、あふれる喜びを共に味わいたいからです。　１２わたしがあなたがたを愛するように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。　これがわたしの教えです。　１３愛は何によって測ることができるでしょう。　友のためにいのちを投げ出すこと、これより大きな愛はありません。　１４わたしの命令に従う人は、わたしの友です。　１５あなたがたはもう使用人ではありません。　今からは、わたしの友です。　主人は使用人に秘密を打ち明けたりはしません。　だがわたしは、父から聞いたことを、何もかも話してあげたのです。
１６　あなたがたがわたしを選んだのではありません。　わたしが、あなたがたを選んだのです。　そして任命しました。　だから、あなたがたは行って、いつまでも残る、すばらしい実を結びます。　また、わたしの名前を使って父に求めるものは、何でもいただけるのです。　１７もう一度念を押します。　互いに愛し合いなさい。　１８あなたがたは、世間の人にひどく憎まれるからです。　だが、忘れてはいけません。　あなたがたより先に、わたしが憎まれたのです。　１９あなたがたが彼らと一つ穴のむじなであったら、世間も、あなたがたを愛したでしょう。　だが、そうではありません。　わたしが、自分で

選び、世間から連れ出したのです。　だからこそ、世間はあなたがたを憎むのです。　２０『使用人は主人より偉くはない』と言ったのを、覚えているでしょう。　わたしを迫害した人々が、あなたがたを迫害して、何の不思議があるでしょう。　しごく当然のことです。　わたしの言うことを聞く人なら、あなたがたの言うことも聞くはずです。　２１世間の人は、わたしの弟子だというだけで、あなたがたを迫害します。　わたしをお遣わしになった神を、全く知らないからです。
２２　わたしが来て、何も話さなかったのであれば、彼らは無罪です。だが今はもう、罪の言いわけは許されません。　２３だれでもわたしを憎む者は、わたしの父をも憎むのです。　２４わたしがあれほどの奇蹟を行なわなかったのであれば、彼らは有罪と宣告されることもなかったでしょう。　だが実際は、奇蹟をはっきり見たにもかかわらず、わたしもわたしの父をも憎んだのです。　２５こうして、『彼らは理由もなしにわたしを憎んだ』という、メシヤ（救い主）についての預言は、そのとおり実現しました。
２６　だが、わたしはあなたがたに、助け主、すなわち、すべての真理の根源である聖霊を遣わしましょう。　その方は、父のもとから来て、わたしのことを、何から何まで語ってくださいます。　２７あなたがたもまた、わたしのことをすべての人に語らなければなりません。　初めから、わたしといっしょにいたからです。
□
一六
悲しみは喜びに変わる
１　このことを話したのは、これからどんなことが起こっても、あなたがたがおたおたしないためです。　２覚悟しなさい。　会堂から除名され、いのちまでつけねらわれる身になるのですから。　事実、あなたがたを殺すことで、神への奉仕を果たすのだと、人々がとんでもない思い違いをする時が来ます。　３父をも、わたしをも知らない人々のやりそうなことです。　４いいですか。　この警告をしっかり心にとめておきなさい。　迫害が現実に起きた時、あわてふためかないですむようにしなさい。　今までこんなことを言わなかったのは、しばらくでも、いっしょにいてあげられたからです。
５　しかし今は、わたしをお遣わしになった方のもとに行かなければなりません。　それでもあなたがたは、わたしが何のためにそこへ行くのか、知りたくないようです。　だれ一人、どこに行くのか尋ねもしないではありませんか。　６ただもう、わたしの話を聞いて、悲しみで胸が張り裂けんばかりなのでしょう。　７だがほんとうは、わたしが行くのは、あなたがたにとって一番よいことなのです。　わたしが行かなければ、助け主はおいでになりません。　行けば、必ずおいでになります。　それというのも、わたしが、その方を遣わすからです。
８　その方が来られると、世間の人に誤りを認めさせます。　罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いということで、人々はまるで考え違いをしているのです。　９まず罪とは、わたしを信じないことです。　１０正しい心を持ち、神と正しい関係を結べ

るのは、わたしが父のもとに行き、もはやわたしを見なくなるからです。　１１さばきから救われるのは、この世の支配者がすでにさばかれたからです。
１２　ああ、話しておきたいことは、まだまだ、たくさんあります。　それなのに、今のあなたがたには、理解できないことばかり……。　１３だが、真理である聖霊が来られます。　その方の指導を受けて、あなたがたもいつか、すべての真理を知るのです。　聖霊は、自分の考えを述べたりはなさいません。　ただ、聞くままを伝えてくださるのです。やがて起こることについても話してくださいます。　１４また、わたしを賞賛し、わたしの栄光を示すことによって、大きな栄誉を与えてもくださいます。　１５父の栄光はみなわたしの栄光です。　だから聖霊がわたしの栄光を示すと言ったのです。　１６じきに、わたしは去って行きます。　もはやわたしを見ることはできません。　だが、またすぐに、わたしを見るのです。」
１７１８この話を聞いて、弟子たちの何人かが、ひそひそささやき始めました。　「いったい何のことだろう。　『じきに、わたしを見なくなり、またすぐに、わたしを見る』とか、『父のもとに行く』とかおっしゃったけど、さっぱりわからないな。」
１９　弟子たちが質問したくて、うずうずしていると、イエスはそれに答えるように、また話し始められました。　「何をひそひそ言い合っているのですか。　そんなにわたしの言うことがわからないのですか？　２０いいですか。　わたしの身に起こることで、この世は、それ見たことかと大喜びし、あなたがたは悲しみます。　だが、やがてわたしに再会するのです。　その時、悲しみは大きな喜びに変わるでしょう。　２１苦しんで子供を産む母親の喜びと全く同じです。　今の今までの激しい苦しみは、うれしさのあまり足が地につかないほどの大きな喜びに変わり、痛みも何もかも、まるでうそのように忘れてしまうのです。　２２今は悲しみでいっぱいでしょう。　だがわたしは、もう一度あなたがたに会います。　その時あなたがたは、だれにも奪われない喜びにあふれるのです。　２３その時には、何一つわたしに求める必要はありません。　直接父に求めることができるからです。　父は、わたしの名前で求めるものは何でも、与えてくださいます。　２４今までこのような求め方をしたことはありませんね。　わたしの名前で求めなさい。　そうすれば与えられ、あなたがたは喜びに満ちあふれるのです。
２５　わたしはたとえを使って話しましたが、そんな必要はなくなる時が来ます。　その時には、父のことを何もかもはっきりと話しましょう。　２６その時、あなたがたはわたしの名前で願い事をするのです。　わたしが代わって、どうぞ願いを聞き届けてやってくださいと父に頼む必要はなくなります。　２７わたしを愛し、わたしが父から来たことを信じるあなたがたを、父も心から愛してくださるからです。　２８そう、わたしは父のもとからこの世に来ました。　そして、また世を去り、父のもとに帰るのです。」
２９　「それならわかります、先生！　少しもなぞめいたところはありません。　３０あなた様は何もかも、ご存じです。　差しで口など、とても口はばったくてできません。　あなた様は、確かに神様に遣わされた方です。」

３１　「やっと信じてくれるのですね。　３２ああ、でも時が来れば、あなたがたは、ばらばらに追い散らされます。　わたし一人を残して、見向きもせず、一目散に家に逃げ帰るのです。　いや、その時はもう来ています。　だが、わたしは一人ではありません。　父がついておられます。　３３あなたがたも、心配しないで、安心していなさい。　こんなにも、念には念を入れて話してあげたのは、そのためなのですから。　確かに、この世では苦難と悲しみが山ほどあります。　しかし、元気を出しなさい。　わたしはすでに世に勝ったのです。」

一七

イエスの祈り

１　ひとしきり語り終えられると、イエスは天を見上げて言われました。　「父よ。　いよいよ時が来ました。　わたしがあなたに栄光をお返しできるように、わたしの栄光を現わしてください。　２地上のすべての人を支配する権威を､わたしに下さったのですから。こうして、あなたから任せられた一人一人に、永遠のいのちを与えるのです。　３ただ一人の、まことの神であるあなたと、あなたがこの地上にお遣わしになったわたしを知ること、それが、永遠のいのちを得る道です。　４わたしは、何もかも、あなたに言われたとおりやり遂げ、地上であなたの栄光を現わしました。　５父よ。　今こそあなたの前で、わたしの栄光を現わしてください。　世界が造られる前に、ごいっしょに持っていたあの栄光で、わたしを輝かせてください。

６　あなたのことはすべて、この人たちに話しました。　彼らはこの世にいましたが、あなたが世から選び出し、わたしに下さったのです。実際にはいつもあなたのものである彼らを､わたしに下さったのです｡彼らはあなたのおことばを守りました。　７いま彼らは、わたしの持っているものはみな、あなたからの贈り物であることを知っています。　８わたしが、あなたの命令を伝えたからです。　彼らはそれを受け入れ、確かに、わたしがあなたのもとから、この地上に遣わされて来たのだと納得し、信じています。

９　お願いがあります。　もちろん、世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためです。　何と言っても、彼らはあなたのものなのですから。　１０彼らはみな、わたしのもの、また、あなたのものです。　あなたは彼らを、他のすべてのものといっしょに、わたしに下さいました。　ですから、彼らはわたしの栄光なのです。　１１わたしは世を去り、あなたのもとに帰ります。　彼らをあとに残して……。　ああ、父よ。　この人たちが一人も脱落しないように守ってください。　わたしたちが一つであるように、彼らも一つとならせてください。　１２わたしがいっしょにいた間は、あなたの家族として、一人一人を安全に守りました。　滅びないように、いつも見守りました。　ただ地獄の子は別です。　彼一人だけが滅びました。　聖書（旧約）に言われていたとおり……。

１３　今わたしは、みもとにまいります。　彼らの心がわたしの喜びでいっぱいになるようにと、いっしょにいる間は、できるだけのことを話しました。　１４あなたの命令も伝えました。　するとどうでしょう。　世間の人は彼らを憎んだのです。　わたし同様、彼

らもこの世と調子を合わせようとしないからです。　１５彼らをこの世から取り去ってくださいとはお願いしません。　ただ、サタンから安全に守ってやってください。　１６わたし同様、彼らも、この世のものではありません。　１７あなたの真理のことばを教え、彼らを純粋な、きよい者としてください。　１８あなたがわたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わします。　１９また、彼らが真理を知る、きよい者として成長できるように、この身をささげます。
２０　この人たちのことだけでなく、この人たちの証言を聞いて、わたしを信じるすべての人のためにも祈ります。　２１父よ。　お願いです！　あなたとわたしが一つであるように、彼らも一つの心、一つの思いとなりますように。　あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるのと同じように、彼らをもわたしたちのうちにおらせてください。　それを見て、あなたがわたしをお遣わしになったことを、世間が信じますように。
２２　あなたが下さった栄光を、わたしは彼らに与えました。　わたしたちが一つであるように、彼らも輝かしい一致を保ってほしかったからです。　２３わたしが彼らのうちにおり、あなたがわたしのうちにおられて初めて、みな完全に一つになるのです。　その時、世間は、あなたがわたしをお遣わしになったことを知り、わたしだけでなく彼らをも愛しておられることを、認めざるをえなくなるのです。　２４父よ。　彼らを、わたしといっしょにおらせてください。　わたしの栄光を見させてあげてください。　世界の造られる前からわたしを愛しておられた、あなたが下さった栄光を。
２５　ああ、父よ。　何事につけても正しい父よ。　世間はあなたを知りません。　けれども、わたしはあなたを知っています。　この弟子たちも、あなたがわたしをお遣わしになったことを知っています。　２６わたしが教えたのです。　これからも教えます。　あなたの大きな愛が彼らをつつみ、わたしも彼らのうちにいられるように。」
一八
逮捕されるイエス
１　ようやく話し終えると、イエスは弟子たちといっしょに出かけ、ケデロンの谷を横切り、とあるオリーブ園に入って行かれました。　２裏切り者のユダも知っている場所でした。　前によく弟子たちと、ここに来たことがあったのです。
３　祭司長とパリサイ人たちは、一個大隊の兵士と神殿警備員たちをユダにつけてやりました。　手に手にあかあかと燃えるたいまつやランプをかざし、武器を引っ下げた一隊が、オリーブ園に押しかけます。
４５イエスは、自分の身に起こることを何もかもご存じだったので、少しもあわてません。前に進み出て人々を迎えました。　裏切り者のユダもいっしょです。　「だれを捜しているのですか。」
「ナザレのイエス！」
「わたしがイエスです。」　６このイエスのことばに、人々はみな息をのんであとずさりし、ばたばたとあお向けに倒れました。

７　イエスはもう一度お尋ねになりました。　「だれを捜しているのですか。」
「ナザレのイエス。」
８　「わたしがそうだと言ったではありませんか。　目当てがこのわたしなら、ほかの者は関係ありません。 このまま帰らせてあげなさい。」 ９こうおっしゃったのは、さっき、「わたしに下さった人たちを、ただの一人も失いませんでした」と言ったとおりになるためでした。
１０　その時、シモン・ペテロは剣を抜き放ち、大祭司の部下、マルコスの右の耳を切り落としました。
１１　しかし、イエスはペテロをたしなめました。　「剣をさやに納めなさい。　父が下さった杯は飲まなければならないのです。」
１２　これを聞くと、ユダヤ人の警備員たちは、大隊長や兵士たちといっしょに、やにわに襲いかかり、イエスを縛り上げてしまいました。　１３彼らがまずイエスを引っ立てて行ったのは、その年の大祭司カヤパのしゅうとアンナスのところでした。　１４カヤパは以前、ユダヤ人の指導者たちに、「一人の人が、全国民の代わりに死ぬほうが得策だ」と助言した人物です。　１５シモン・ペテロは、もう一人の弟子といっしょに、恐る恐るイエスについて行きました。　その弟子はうまいぐあいに大祭司の知り合いだったので、イエスといっしょに中庭に入れてもらえましたが、　１６ペテロは、じりじりしながら、門の外に立っているほかありません。　そこへあの弟子が来て、門番の女に頼み込んだので、やっと入れてもらえることになりました。　１７ほっとしたのもつかの間、女は、まじまじとペテロを見やり、「ねえ、ちょっと、あんた、イエスの弟子じゃない？」と聞くではありませんか。
「とんでもない、何を言うんだい。」そらとぼけてその場はなんとか切り抜けました。
１８　寒い日でした。　警備員や召使たちは、炭火をかこんで、暖まっています。　ペテロも何くわぬ顔で、いっしょに立って暖まっていました。
１９　中ではいよいよ、大祭司がイエスに、弟子たちのことや教えの内容などについて、尋問を始めたところです。
２０　イエスはお答えになりました。　「わたしの教えは、わかっているでしょう。　いつも会堂や宮で教えたのですから。　ユダヤ人の指導者の皆さんも、聞いておられたはずです。　それ以外に、隠れて別のことを教えたことはありません。　２１どうして、そんな質問をするのですか。　そのようなことは、わたしの話を聞いた人たちに尋ねればすむのに。　ここにも何人かはいるでしょう。　わたしが何を言ったか、その人たちが一番よく知っています。」
２２　「無礼者！　それが、大祭司様に対する口のきき方かっ！」そばに立っていた役人の一人が、どなりつけざま、平手でイエスをなぐりました。
２３　イエスは、お答えになりました。 「何か、まちがったことでも言いましたか。　だったら、証拠を見せてください。　正しいことを言う者をなぐる法はないはずです。」

２４　こうしたやりとりのあと、アンナスはイエスを、縛ったまま、大祭司カヤパのところに回しました。
２５　一方、シモン・ペテロはどうしたでしょう。　火のそばで暖まっていると、またしても人々が、「あんた、あの人の弟子じゃないかね」と問い詰めるではありませんか。
「弟子だって？　冗談じゃない。」
２６　こう答えたものの、まずいことに、ペテロが耳を切り落とした、あの大祭司の部下の親類にあたる者が居合わせたのです。　「しらばっくれてもだめだぜ。　あのオリーブ園で、確かにイエスといっしょだったぞ。」
２７　こうまで言われても、ペテロはあくまで白をきりました。　と、その時、鶏の鳴く声が聞こえました。
裁判を受けるイエス
２８　カヤパの取り調べは、その朝早く終わり、今度はローマ総督の番です。　訴える人々は、イエスを総督官邸まで連れて行きましたが、中へは入ろうとしません。　そんなことをしたら、身が汚れて、過越の小羊が食べられなくなるというのです。　（ユダヤ教のおきてでは、異教徒の家に入ることは、たいへん汚らわしいことだったのです。）　２９それで、総督ピラトがわざわざ外に出て来て、問いただしました。「何を告発するのか。　いったいこの男はどんな悪事を働いたのだ。」
３０　「やつが犯罪人でないなら、逮捕したりはいたしません！」彼らも負けずにやり返します。
３１　「そうか。　だったら、おまえたちが裁判したらよかろう。　おまえたちの法律に従ってな。」
「お忘れですか。　私どもにはこの男を死刑にする権利はないのですよ。　ぜひとも閣下のご承認がいただきたいですな。」　３２こうして、自分がどのような方法で処刑されるか、イエスが前もって話しておられたことが、現実となったのです（マタイ二〇・一九参照)。
３３　ピラトは官邸内に戻ると、イエスを呼び寄せて尋ねました。　「おまえはユダヤ人の王か。　どうなんだ。　ええっ。」
３４　「はて、王といわれましても……。　普通の意味での王ですか。　それとも、ユダヤ人の言う王でしょうか。」
３５　ピラトは頭にきて言い返しました。　「なにっ！　私がユダヤ人だとでも言うつもりか。　おまえをここに引っ立てて来たのは、ユダヤ人と祭司長どもなんだぞ。　いったいどうしたのだ。　何をしでかしたのか。」
３６　「わたしは地上の王ではありません。　もし地上の王であったら、逮捕された時、弟子たちは戦いをいどんだでしょう。　わたしの国はこの世のものではないのです。」
３７　「なんだと、それじゃあ、やっぱりおまえは王なんだなっ！」
「いかにもそのとおりです。　そのためにこそ、わたしは生まれたのです。　そう、この世に真理を伝えるために。　真理を愛する者はみな、わたしに従うのです。」

３８　「真理だと？　真理とは何だ。」吐き捨てるように叫ぶと、ピラトはまたユダヤ人たちのところへ行き、こう提案しました。　「あの男は無罪だ。　３９ところで、毎年過越の祭りの時には､囚人を一人釈放してやることになっている。 おまえたちさえよければ、あの『ユダヤ人の王』を釈放してやるが、どうだ。」
４０　「違う！　あいつじゃない！　バラバだ！」彼らはまた大声でわめき立てました。このバラバという男は強盗だったのです。
一九
１　しかたなくピラトは、イエスの背中を鉛のついたむちで打たせました。　２そして兵士たちは、いばらで冠を編み、イエスの頭にかぶらせ、王の着る紫色のガウンを着せました。　３それから､「よお、ユダヤ人の王様、ばんざーいっ！」とさんざんからかい、おまけに平手でたたいたりしたのです。
４　ピラトはもう一度外に出て､ユダヤ人たちに念を押しました。｢今､あの男を連れ出す。だがいいか。　私の見たところでは、あの男は無罪だ。」
５　イエスは、いばらの冠に紫色のガウンという姿のまま、出て来られました。　「よく見ろ。　この男だ」と、ピラトが言いました。
６　「十字架につけろっ！　十字架だっ！」イエスを見るやいなや、祭司長やユダヤ人の役人たちは、大声でわめき立てました。
「そこまで言うなら、おまえたちがやれっ！　私の調べでは無罪だからな。」
７　「こいつは自分を神の子とぬかしました。　私どもの法律では、死刑です。」
８　このことばを聞くと、ピラトは、ますますこわくなりました。　９もう一度、イエスを官邸へ連れ戻し、尋ねました。　「おまえはいったい、どこから来た？」しかし、イエスは、ひと言もお答えになりません。
１０　ピラトはさらに問い詰めます。　「何も言わないのか。　わからんやつだな。　私の命令ひとつで、おまえを釈放することも、十字架につけることもできるのだぞ。」
１１　イエスは言われました。　「神から与えられた権威でなければ、あなたは何も手出しはできません。　ですから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きいのです。」
１２　何とかしてイエスを釈放しようと手を尽くすピラトに、ユダヤ人の指導者たちは激しく抵抗しました。　「こやつを釈放なさるおつもりで？　そんなことをしたら、あなた様はカイザル（ローマ皇帝）の味方ではありません。　だれであろうが、自分を王とする者は謀反人です。」
１３　こう言われて、ピラトは、またもやイエスを外に連れ出し、敷石〔ヘブル語では「ガバタ」〕という場所で裁判の席に着きました。　１４ちょうど、過越の祭りの前日、正午ごろのことでした。
「さあ、おまえたちの王だ。」
１５　「殺せ、殺せ。　十字架につけろっ！」

「なにっ？　おまえたちの王をか？」
「カイザルのほかに王はないっ！」祭司長たちは、むきになって叫び返します。
１６　これでは、しかたがありません。　ピラトもあきらめ、十字架につけるため、イエスをユダヤ人に引き渡しました。
十字架につけられ、埋葬されるイエス
１７　ついに、イエスはユダヤ人たちの手に落ちたのです。　イエスは、十字架を背負わされ、エルサレム市外の、「がいこつ」〔ヘブル語で「ゴルゴタ」〕という場所へ引っ立てられて行かれました。　１８人々はそこで、ほかの二人といっしょにイエスを十字架につけました。　イエスは真ん中、二人はその両側に。　１９ピラトは、イエスの頭上に、「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いた罪状書きを掲げました。　２０処刑の場所は都に近く、しかも、罪状書きはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあったので、大ぜいの人が読みました。
２１　これを見た祭司長たちは、ピラトに抗議しました。　「『ユダヤ人の王』とあるのは納得がいきません。　『ユダヤ人の王と自称した』と書き直してください。」
２２　「私が書いたことに口出しする気かっ！　そのままにしておけ。」ピラトは頑として聞き入れません。
２３　さて、イエスを十字架につけてしまうと、兵士たちは、はぎ取った着物を四つに分け、一つずつ取りました。　下着もそうしようとしましたが、見ると縫い目がありません。
２４「こいつは裂くわけにいかないな。　よし、だれが取るか、くじで決めようぜ」と相談がまとまりました。　「彼らはわたしの着物を分け合い、下着をくじ引きにした」という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。　２５兵士たちがこんなやり方をしたのも、実はそのためでした。
十字架のそばには、イエスの母マリヤ、おば、クロパの妻マリヤ、マグダラのマリヤが立っていました。　２６特に目をかけていただいた私もいっしょでした。　イエスは、私のそばに立ち尽くしているご自分の母親を見つめられ、「お母さん。　ほら、そこにあなたの息子がいますよ」とお声をかけられました。
２７　それから、弟子の私に、「さあ、あなたの母親ですよ」とおっしゃいました。　その時以来、私は先生のお母さんを家に引き取ったのです。
２８　こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。　これも　聖書（旧約）のことばどおりの出来事です。　２９そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてあります。　人々は、海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。
３０　それをお受けになると、最後に「何もかもなしとげた」とひと言叫ばれ、息を引きとられたのです。
３１　まずいことに、翌日は安息日でした。　〔しかも特別に重要な日でした。〕ユダヤ人の指導者たちは、どうしても、死体を翌日まで十字架にかけっぱなしにしておきたくあり

ません。　ピラトに、受刑者どものすねを折って早く死なせるよう取り計らってほしい、と願い出ました。　そうすれば、取り降ろせるからです。　３２さっそく兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた二人の男のすねを折りました。　３３最後に、イエスのところに来て見上げると、すでに死んでおられます。　それで、すねを折るのはやめにしました。　３４ところが、兵士の一人が何を思ったのか、いきなり槍でわき腹を突きました。　すると、どうでしょう。　そこから血と水が流れ出たのです。　３５この一部始終を、私は確かにこの目で見ました。　それをありのままに、正確に報告しています。皆さんにも信じていただきたいからです。　３６３７兵士たちがこうしたのは、聖書（旧約）に、「彼の骨は一つも砕かれない」、また「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」とあるとおりのことが、起こるためでした。

３８　このあと、弟子でありながら、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、それをひた隠しにしていたアリマタヤのヨセフが、勇気を奮い起こし、ピラトに、イエスの死体を引き取りたいと願い出ました。　ピラトの許可を得ると、すぐ刑場に駆けつけ、死体の取り降ろしにかかりました。　　３９前に、夜、イエスのところに来たことのあるニコデモも、没薬（天然ゴムの樹脂で、古代の防腐剤）とアロエでつくった埋葬用の香油を三十キロほど用意して来ました。　４０二人はいっしょに、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料をしみ込ませた長い亜麻布でイエスのお体を包みました。　４１刑場の近くに、木の生えている園があり、そこには、さいわい新しい墓がありました。　４２安息日の前日ですから、急がなければなりません。　すぐ近くだったこともあり、イエスをその墓に納めました。

二〇

イエスは復活した！

１　週の初めの日（日曜日）、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリヤは墓に行きました。　見ると、入口の石がわきにのけてあります。

２　驚いたマリヤは、息せき切ってシモン・ペテロと私のところに駆けつけ、「た、たいへんよ。　だ、だれかが、主のお体を取ってっちゃったわ！　ねえ、いったい全体、どこに置いたのかしら」と叫びました。

３４私たちは、それを確かめようと、二人して墓に急ぎました。　私はペテロより速かったので、先に着きました。　５すぐさま身をかがめてのぞき込むと、亜麻布が見えます。けれども、中には入りませんでした。　６続いてシモン・ペテロが駆けつけ、ためらわず中に入りました。　彼もやっぱり、亜麻布と、　７そこからやや離れた所に、イエスの頭に巻いたはずの布がそのままの形で置いてあるのを見ました。　８私もあとから入り、この有様を見て、イエスが復活なさったことを信じました。　９この時までは、イエスは必ず復活すると書いてある聖書のことばを、全く理解していなかったのです。

１０　二人は家に帰りました。　１１同じころ、マリヤは墓に戻り、外に立って泣いていました。　ところが、泣きながら身をかがめて墓の中をのぞき込むと、　１２イエスのお体があった場所の、頭と足にあたる所に、白い着物をきた御使いが二人、座っているでは

ありませんか。
１３　「なぜ泣いているのです？」御使いたちがマリヤに尋ねました。
「だれかが私の主を取って行ったからですわ。　どこに置いたのか、まるっきりわからないんですもの。」
１４　こう答えてふり向くと、だれかが立っています。　なんとイエスでした。　しかし、マリヤはまだ気がつかないようです。
１５　イエスはマリヤにお尋ねになりました。　「どうかしましたか。　泣いたりして……。　だれを捜しているのですか？」
マリヤは、園の管理人と勘違いしていたので、「あの方を運んだのはあなた？　もしそうだったら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります」と言いました。
１６　「マリヤ。」イエスが呼びかけられました。　その声にマリヤは、イエスのほうを向いて叫びました。
「先生っ！」
１７　「待ちなさい。　すがりつくのはやめなさい。　まだ父のもとに上っていないのですから。　それよりも、してほしいことがあります。　行ってわたしの兄弟たちに、『わたしは、わたしの父、またあなたがたの父である方、わたしの神、またあなたがたの神である方のもとに上って行く』と伝えてほしいのです。」
１８　マグダラのマリヤは、さっそく帰って行き、弟子たちに、「ねえ聞いて、主にお会いしたのよ」と告げ、イエスの言われたとおりに話しました。
１９　同じ日曜日の夕方のことです。　弟子たちは、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、戸にしっかりかぎをかけ、肩を寄せ合うようにして集まっていました。　その時、突然、全く突然に、イエスが一同の中にお立ちになったのです。　「平安があるように。」イエスはまず、こうあいさつされてから、　２０手とわき腹をお見せになりました。　主を見た弟子たちの喜びは、どんなだったでしょう。
２１　イエスはもう一度言われました。　「平安があるように。　父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わします。」　２２ここで、一同にふっと息を吹きかけ、また言われました。　「聖霊を受けなさい。　２３あなたがたが赦すなら、だれの罪も赦されます。　あなたがたが赦さない罪は赦されません。」
疑わずに信じなさい
２４　十二弟子の一人で、「ふたご」と呼ばれたトマスは、その時、その場に居合わせませんでした。　２５それでみんなが、「ほんとうだよ。主にお会いしたんだよ」と口をすっぱくして話しましたが、本気にしません。　頑として、こう言いはるばかりです。　「主の御手に釘あとを見、この指をそこに差し入れ、この手を主のわき腹に差し入れてみなきゃ、信じるもんか。」
２６　八日たちました。　その日も、弟子たちは集まっていました。　今度はトマスもいっしょです。　戸には、かぎがかかっています。　ところが、突然、前の時と全く同じよ

うに、イエスが一同の中に立ち、「平安があるように」と、あいさつなさったではありませんか。
２７　それからイエスは、トマスにおっしゃいました。　「さあ、あなたの指をこの手に当ててみなさい。　あなたの手をこのわき腹に差し入れてみなさい。　いつまでも疑っていないで、信じなさい。」
２８　「ああ、わが主、わが神よ！」感きわまって、トマスは叫びました。
２９　「わたしを見たから信じたのですか。　しかし、見なくても信じる者はしあわせです。」
３０　この本に記した奇蹟のほかにも、もっと多くの奇蹟をイエスが行なわれるのを、弟子たちは見ました。　３１しかし、これらのことを特に書いたのは、あなたがたが、イエスは神の子キリストであると信じるため、またそう信じていのちを得るためです。
二一
ガリラヤ湖畔で弟子に現われたイエス
１　このことがあってから、ガリラヤ湖のほとりで、もう一度、イエスは弟子たちの前に現われました。　その時のいきさつはこうです。
２　シモン・ペテロ、「ふたご」と呼ばれたトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、私の兄弟のヤコブ、それに私と、ほかに二人の弟子がいっしょにいました。
３　「漁に行くぞ」とシモン・ペテロが言いだしました。
すると、みんな、「それじゃあ、おれたちも」というわけで、そろって出かけました。　小舟に乗り込み、漁が始まりました。　ところが、一晩中かかっても、雑魚一匹とれません。
４もう夜明けというころ、だれかが岸辺に立っているのが見えました。　ぼんやりかすんでいるので、だれかは、ちょっとわかりません。
５　「おーい。　魚はとれたかーい。」その人が声をかけてきました。
「いやー、全然だめだよー。」
６　「では、舟の右側に網を下ろしてごらんなさい。　きっと、たくさんとれますよ。」さっそく、そのとおりにすると、どうでしょう。　重くて引き上げられないほど、たくさんの魚がかかったのです。
７　その時、私ははっと気がつき、「おい、あの方は主だぞ！」とペテロに言いました。　それを聞くとペテロは、裸だったので、あわてて上着をはおり、さっと水に飛び込みました。
８舟に残った私たちは、百メートルほど離れた岸辺まで、魚ではち切れんばかりの網を引いて、そろそろ進みました。　９着いてみると、炭火がおこしてあります。　その上では魚がいいぐあいに焼けており、パンもあります。
１０　「今とった魚を少し持って来なさい。」　１１こう言われて、シモン・ペテロがまっ先に飛んで行き、網を陸に引き上げました。数えてみると、なんと、大きな魚が百五十三匹……。　しかも、網はどこも破れていません。
１２　「さあ、ここへ来て、朝ごはんにしなさい」とイエスはうながされます。　「ほん

とうに主ですか」などとあえて尋ねる者は、一人もいません。　それほどよく、わかっていたのです。　１３イエスはそばに来られ､パンと魚をめいめいに配ってくださいました。
１４　死人の中から復活されたあと、私たちに現われてくださったのは、これで三度目です。
１５　食事がすむと、イエスはシモン・ペテロを見つめておっしゃいました。　「ヨハネの子シモン。　ほかのだれよりもわたしを愛しますか。」
「はい、主よ。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの小羊を養いなさい。」
１６　イエスは、くり返しお尋ねになりました。　「ヨハネの子シモン。　ほんとうにわたしを愛していますか。」
「はい、主よ。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの羊の世話をしなさい。」
１７　イエスはもう一度、念を押されました。　「ヨハネの子シモン。ほんとうにわたしを愛していますか？」
三度こんな尋ね方をされたので、ペテロは心に痛みを感じながら答えました。　「主よ。いっさいをご存じなのはあなた様です。　私があなたを愛することは、あなたがご存じです。」
「それでは、わたしの羊を養いなさい。　１８あなたは若い時には、したいことをし、行きたい所に行きました。　だが、年をとると、そうはいかなくなります。　あなたは自分の手を伸ばし、だれかほかの人が、行きたくもない所へあなたを引っ張って行くのです。」
１９こう言われたのには訳がありました。　ペテロがどんな死に方をして、神の栄光を現わすかを、知らせようとなさったのです。　それから、「わたしについて来なさい」と言われました。
２０　ペテロが何げなくふり向くと、イエスが特に目をかけておられた弟子が、ついて来るではありませんか。　あの最後の夕食の時と、イエスに寄りかかって、「主よ。　裏切り者はだれですか」と尋ねた弟子です。
２１　たちまちペテロの好奇心が頭をもたげました。「主よ。　彼はどうなんです？　どういう死に方をするのですか。」
２２　「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう。　人のことは気にしないで、ただわたしについて来ればいいのです。」
２３　このことから、その弟子は死なないといううわさが、クリスチャンたちの間に広まりました。　しかし、イエスはそう断言なさったわけではありません。　ただ、「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう」と言われただけなのです。
２４　その弟子とは、実は私のことです。　私はこれらの出来事を、見たとおり、ここに

記録しました。　この記録が正確なことは、私たちみんなが知っています。
２５　イエスのなさったことは、ほかにもたくさんあります。　それをいちいち書き記すとしたら、全くきりがないでしょう。　世界中が本であふれるほど書いても、それでもまだ足りないと思います。
□